

第1号議案

平成13年度 社団法人京都私立病院協会 事業報告に関し承認を求める件

【総務部】

| | |
|-----------------------|----|
| 組織の現状と執行体制 | |
| A 会員関係 | 4 |
| B 役員及び業務分担 | 5 |
| C 第27回通常総会 | 8 |
| D 理事会 | 8 |
| E 政策委員会 | 8 |
| 会員相互の連携と組織強化 | |
| A 表彰 | 9 |
| B 事務長会 | 9 |
| C 看護部長会 | 14 |
| D 薬局長会 | 16 |
| E 栄養士部会 | 17 |
| F 臨床検査部会 | 18 |
| G 放射線技師部会 | 19 |
| H 情報システム運営委員会 | 20 |
| I 病院機能向上対策委員会 | 21 |
| J 地区会議 | 21 |
| K 新春会員懇親会 | 22 |
| L 創立37周年記念式典 | 22 |
| 広報活動および情報サービスの充実 | |
| A 京都私立病院報 | 23 |
| B 私病協情報サービス | 23 |
| C 感染症対策に関する広報活動 | 24 |
| D 協会ホームページ | 24 |
| E その他の広報活動 | 24 |
| 病院職員の確保対策への取り組み | |
| A 養成事業 | 24 |
| B 医療従事者無料職業紹介事業への取り組み | 25 |
| 医療制度の検討 | |
| A 病院をとりまく情勢 | 26 |
| B 病院医療制度検討委員会 | 27 |
| 病院団体との交流 | |
| A 近畿病院団体連合会 | 28 |
| B 中央における病院団体 | 29 |

| | |
|-------------------|----|
| 京都府内における医療団体との連携 | |
| A 京都府医師会 | 30 |
| B 京都府病院協会 | 30 |
| C その他 | 30 |
| 行政への対応 | |
| A 京都府 | 31 |
| B 京都市 | 32 |
| 関連団体との連携 | 33 |
| 職員人事（平成14年4月1日現在） | |
| A 京都私立病院協会 | 33 |
| B 京都保健衛生専門学校 | 34 |
| C 京都府病院協同組合 | 34 |
| D 京都府病院厚生年金基金 | 34 |
| E 京都中央看護専門学校 | 35 |

【保険部】

| | |
|----------------------------------|----|
| 医療保険・関係諸法 | |
| A 入院基本料等基準・施設基準 | 36 |
| B 医療保険担当理事会議 | 37 |
| C 京都府医師会との保険医療懇談会 | 37 |
| D 政府管掌健康保険生活習慣病予防健診指定医療機関問題 | 38 |
| E 特別の療養環境の提供に係わる調査（室料差額実態調査）への協力 | 38 |
| F 生保指定医療機関に対する個別指導への立ち合い | 39 |
| G 診療報酬委員会 | 39 |
| 介護保険 | |
| A 介護保険への取り組み | 39 |
| B 介護保険委員会 | 40 |
| C 介護報酬委員会 | 41 |
| D ケアマネジャー委員会（ケアマネジャー準備委員会） | 42 |

【地域医療部】

| | |
|---------------------|----|
| 救急・休日・時間外診療体制の推進 | |
| A 京都府下における二次病院群輪番体制 | 43 |
| B 京都府救急医療情報システム | 45 |
| C 京都府周産期医療情報システム | 46 |
| 救急医療をめぐる問題への取り組み | |
| A 救急医療委員会 | 46 |
| B 救急搬入事故対策委員会 | 47 |
| 在宅医療等への取り組み | |
| A ホームヘルパー養成事業 | 48 |

| | |
|--------------|----|
| 医療安全対策への取り組み | 49 |
| 感染症対策への取り組み | 50 |
| 情報開示についての検討 | 51 |

【学術研修部】

| | |
|------------------------------|----|
| 京都病院学会 | |
| A 第36回京都病院学会 | 52 |
| B 第37回京都病院学会の開催にむけて 教育・研修 | 53 |
| A 教育訓練初級コース | 54 |
| B 中堅幹部職員研修 | 54 |
| C 看護卒後教育 | 55 |
| D 保健医療管理者養成講座 | 57 |
| E 在職者向けIT訓練講座 | 58 |

【経営部】

| | |
|--------------------|----|
| A 民間病院に対する補助制度への対応 | 59 |
| B 入院環境整備委員会 | 59 |
| C 感染性廃棄物処理問題委員会 | 60 |
| D 薬事委員会 | 60 |
| E 購買担当者会議 | 61 |
| F 融資斡旋 | 61 |

【厚生部】

| | |
|----------------------|----|
| A 第37回病院対抗野球大会の開催 | 63 |
| B 第24回病院対抗女子バレーボール大会 | 63 |

< 参考 >

| | |
|--------------|----|
| 京都保健衛生専門学校 | 65 |
| 京都府病院協同組合 | 69 |
| 京都府病院厚生年金基金 | 70 |
| 京都中央看護婦養成事業団 | 71 |

【総務部】

組織の現状と執行体制

A 会員関係

| | | | | | |
|---|----------------|-----------------|-----|------------|----|
| 1 | 会員数 | 平成14年3月31日現在 | | | |
| | | 会 員 | | 142 | 施設 |
| | | 特別会員 | | 26 | 施設 |
| | 職員数 | | | 約28,000 | 名 |
| 2 | 病床数 | 平成14年3月31日現在 | | | |
| | | 会 員 | 一 般 | 18,972 | 床 |
| | | | 結 核 | 144 | 床 |
| | | | 精 神 | 5,992 | 床 |
| | | | 老 健 | 100 | 床 |
| | | | 計 | 25,215 | 床 |
| | | 特別会員 | | 158 | 床 |
| 3 | 会員組織・名称変更 | | | | |
| | 医療法人白峰会綾部ルネス病院 | 医療法人綾富士会綾部ルネス病院 | | 平成13年5月 | |
| | 医療法人足立病院 | 医療法人今井会足立病院 | | 平成13年6月 | |
| | 医療法人第二足立病院 | 医療法人今井会第二足立病院 | | 平成13年6月 | |
| | 河端病院 | 医療法人河端病院 | | 平成13年7月 | |
| | 医療法人あたご病院 | 医療法人清仁会亀岡シミズ病院 | | 平成13年9月 | |
| | 医療法人大羽病院 | 医療法人社団医道会大羽記念病院 | | 平成14年2月 | |
| | 医療法人第二大羽病院 | 医療法人社団医道会十条病院 | | 平成14年2月 | |
| 4 | 入 会 | | | | |
| | 薬師山病院 | | | 平成13年4月 | |
| | 吉岡医院 | | | 平成13年7月 | |
| | 福岡医院 | | | 平成13年7月 | |
| 5 | 退 会 | | | | |
| | 志津川五和の園老人保健施設 | | | 平成13年4月 | |
| | 吉岡病院 | | | 平成13年6月 | |
| | さが診療所 | | | 平成14年3月 | |
| 6 | 物 故 者 | | | | |
| | 吉岡 秀憲 | 吉岡医院院長 | | 平成13年9月12日 | |

B 役員及び業務分担

1 役員

| | | | |
|-----|------------------|-----|-----------------|
| 会長 | 武田隆男(武田病院) | 副会長 | 大槻秧司(亀岡病院) |
| 副会長 | 清水 紘(嵯峨野病院) | 副会長 | 吉川順介(吉川病院) |
| 副会長 | 中野種樹(長岡病院) | 副会長 | 真鍋克次郎(八幡中央病院) |
| 理事 | 秋山俊二(蘇生会総合病院) | 理事 | 板坂 勉(宇治病院) |
| 理事 | 出射靖生(京都回生病院) | 理事 | 大澤 直(大澤病院) |
| 理事 | 太田 互(太田病院) | 理事 | 大野研而(京都民医連中央病院) |
| 理事 | 岡本豊洋(第二岡本総合病院) | 理事 | 梶並稔正(西京都病院) |
| 理事 | 河端一也(新河端病院) | 理事 | 久野成人(久野病院) |
| 理事 | 小森直之(なぎ辻病院) | 理事 | 近藤泰正(堀川病院) |
| 理事 | 清水鴻一郎(清水病院) | 理事 | 清水正啓(愛生会山科病院) |
| 理事 | 清水幸夫(シミズ病院) | 理事 | 戸津崎茂雄(京都南病院) |
| 理事 | 中野博美(京都きづ川病院) | 理事 | 松井道宣(京都九条病院) |
| 理事 | 吉川 聡(宇治黄檗病院) | 理事 | 吉田多美(協会事務局) |
| 監事 | 相馬秀臣(相馬病院) | 監事 | 大川原康夫(愛生会山科病院) |
| 監事 | 坂本正寿(坂本・森田法律事務所) | | |

2 業務分担

1) 政策委員会

武田隆男、大槻秧司、清水 紘、吉川順介、
中野種樹、真鍋克次郎、吉田多美

2) 総務部

部長 / 清水 紘 副部長 / 中野種樹

庶務 / 板坂 勉、太田 互

経理・労務 / 板坂 勉、秋山俊二

職種・職務別組織

理事長・院長会 - 清水 紘

医師部会 - 清水 紘

事務長会 - 秋山俊二

看護部長会 - 大澤 直

薬局長会 - 河端一也

放射線技師部会 - 小森直之

臨床検査部会 - 大野研而

栄養士部会 - 松井道宣

地区別組織

京都市内 - 吉川順介、清水鴻一郎

北部地区 - 大槻秧司、太田 互

南部地区 - 真鍋克次郎、中野博美

広報担当 / 中野種樹、吉川 聡、梶並稔正、
久野成人

私病報編集委員会 - 中野種樹、吉川 聡、
梶並稔正、久野成人

病院の質、機能向上担当 / 中野種樹、

板坂 勉、岡本豊洋、秋山俊二、戸津崎茂雄

病院機能向上対策委員会 - 中野種樹、

板坂 勉、岡本豊洋、秋山俊二、

戸津崎茂雄

無料職業紹介事業 / 板坂 勉、秋山俊二、
太田 互
医療従事者無料職業紹介事業運営委員
会 - 板坂 勉、秋山俊二、太田 互
病院医療制度検討委員会 / 清水 紘、
中野種樹、清水鴻一郎、戸津崎茂雄、
松井道宣、小森直之、岡本豊洋
涉外 /
全般 - 清水 紘
精神病院協会 - 吉川 聰
全国病院団体連合 - 武田隆男
日本病院会 - 武田隆男
全日本病院協会 - 清水 紘
近畿病院団体連合会 - 武田隆男
近畿病院団体連合会委員会 - 武田隆男、
大槻秧司、清水 紘、吉川順介、
中野種樹、真鍋克次郎

3) 地域医療部

部長 / 真鍋克次郎 副部長 / 大槻秧司
救急医療担当 / 真鍋克次郎、吉川順介、
中野博美、清水幸夫、出射靖生
救急医療委員会 - 真鍋克次郎、
吉川順介、中野博美、清水幸夫
救急搬入事故対策委員会 - 出射靖生
京都府交通事故医療連絡協議会 -
真鍋克次郎、吉川順介
京都府救急医療情報システム運営懇
談会 - 真鍋克次郎
血液製剤の使用に関する懇談会 -
吉川順介
京都市救急救命士に関する懇談会 -
真鍋克次郎
二次病院群輪番担当 / 京都市 - 清水幸夫
南山城 - 真鍋克次郎

京都市休日急病診療所 /
理事会 - 吉川順介
運営委員会 - 近藤泰正
周産期医療 / 真鍋克次郎
京都府周産期医療協議会 - 真鍋克次郎
感染症対策担当 / 清水正啓、戸津崎茂雄、
中野博美、大野研而、河端一也、
小森直之
感染症対策委員会 - 清水正啓、
戸津崎茂雄、中野博美、大野研而、
河端一也、小森直之
在宅医療担当 / 大槻秧司、中野種樹、
大澤 直、板坂 勉、梶並稔正
ホームヘルパー養成事業運営委員会
- 大槻秧司、大澤 直、中野種樹、
板坂 勉
京都SKYセンター担当 - 板坂 勉、
梶並稔正

医療安全対策担当 / 大槻秧司、
真鍋克次郎
医療安全対策委員会 - 大槻秧司、
真鍋克次郎、清水正啓
情報システム担当 / 中野種樹、小森直之、
河端一也
情報システム運営委員会 - 中野種樹、
小森直之、河端一也
情報開示担当 / 大槻秧司、松井道宣、
戸津崎茂雄
情報開示委員会 - 大槻秧司、松井道宣、
戸津崎茂雄

4) 保険部

部長 / 清水 紘 副部長 / 真鍋克次郎
医療保険担当 / 清水 紘、真鍋克次郎、
吉川順介、出射靖生、秋山俊二、

- 梶並稔正、久野成人、小森直之(オブザーバー:大槻 均事務長会常任委員)
府医師会との懇談会 - 清水 紘、
真鍋克次郎、出射靖生
診療報酬委員会 - 清水 紘、
真鍋克次郎
政府管掌健康保険生活習慣病予防健診担当 / 清水 紘、小森直之
介護保険担当 / 清水 紘、大槻秧司、
秋山俊二、出射靖生、大澤 直、
梶並稔正、久野成人、吉川 聰
介護保険委員会 - 清水 紘、大槻秧司、
秋山俊二、出射靖生、大澤 直、
梶並稔正、久野成人、吉川 聰
介護報酬委員会 - 清水 紘、
秋山俊二、久野成人
ケアマネジャー委員会 - 清水 紘、
大澤 直
府医師会との懇談会 - 清水 紘、
大槻秧司、吉川 聰
- 5) 学術研修部
部長 / 大槻秧司 副部長 / 吉川順介
京都病院学会担当 / 清水 紘、
真鍋克次郎、吉川順介、大澤 直、
吉川 聰、小森直之、久野成人
教育研修担当 / 大槻秧司、吉川順介、
松井道宣、吉川 聰、清水正啓、
河端一也、久野成人
初級者教育訓練 - 大槻秧司、
清水正啓
看護卒後教育検討委員会 - 松井道宣、
河端一也、久野成人
中堅幹部職員研修 - 吉川 聰
保健医療管理者養成講座 - 吉川順介
- 保健医療管理者養成講座運営委員会
- 吉川順介、大槻秧司、中野種樹、
近藤泰正
- 6) 経営部
部長 / 中野種樹 副部長 / 吉川順介
経営管理担当 / 中野種樹、吉川順介、
秋山俊二
医療関連サービス研究 - 中野種樹、
秋山俊二
薬事委員会 - 吉川順介
購買担当者会議 - 中野種樹
入院環境整備委員会 - 吉川順介、
太田 互
感染性廃棄物処理問題委員会 -
中野種樹、秋山俊二、太田 互
税務政策担当 / 中野種樹、吉川順介、
清水鴻一郎、秋山俊二、(オブザーバー:石
原良次事務長会常任委員会委員長)
- 7) 厚生部
部長 / 吉川順介 副部長 / 中野種樹
厚生事業担当 / 吉川順介、中野種樹、
梶並稔正、久野成人
野球大会実行委員会 - 梶並稔正、
久野成人
バレーボール大会実行委員会 -
梶並稔正、久野成人
新クラブ設立準備委員会 - 吉川順介、
中野種樹
- 8) 京都保健衛生専門学校
部長 / 清水 紘 副部長 / 大澤 直
中野種樹、近藤泰正
- 9) 京都中央看護婦養成事業団
部長 / 大槻秧司 副部長 / 真鍋克次郎
清水 紘、清水幸夫、中野博美

C 第27回通常総会

平成13年5月23日 於：リーガロイヤルホテル京都

- 議 事 第1号議案 12年度(社)京都私立病院協会事業報告に関し承認を求める件
第2号議案 12年度(社)京都私立病院協会歳入歳出決算に関し承認を求める件
第3号議案 13年度(社)京都私立病院協会事業計画に関し承認を求める件
第4号議案 13年度(社)京都私立病院協会歳入歳出予算に関し承認を求める件
第5号議案 役員を選出に関する件
第6号議案 選挙管理委員・予備選挙管理委員の選出に関する件
第7号議案 顧問の委嘱に関する件
審議の上、全議案が承認可決された。

D 理事会

毎月第1、第3水曜日を定例日として開催。

協会の執行機関として定款及び理事会規定に基づき正確な情報と資料をもとに審議を尽くし、その役割を果たすよう努めた。

また、医療制度改革、診療報酬、消費税や医療法人の相続税等の税問題、ペイオフ対応等医療を取り巻く環境の激変に立ち向かうため、理事会で情報提供や意見交換に努めた。

第13期第40回理事会(平成13年4月4日)～第43回(平成13年5月9日)

第14期第1回理事会(平成13年6月6日)～第22回(平成14年5月15日)計25回開催

E 政策委員会

月はじめの理事会終了後開催を原則とし、理事会で政策一任となった案件についての審議や、重要な問題の基本方針について検討をおこなった。

また、関連事業所間の連携を十分におこなうためにも、各事業所の重要な問題について政策委員会において十分な討議をおこなった。

第13 12回(平成13年4月4日)～第14回(平成13年5月9日)

第14 1回(平成13年5月29日)～第16回(平成14年3月20日)計19回開催

会員相互の連携と組織強化

A 表彰

国や地方自治体より推薦依頼のある各種表彰に対して推薦をおこない、会員関係では以下の方々が表彰された。

京都府救急医療功労者表彰

個人の部 / 添田晴雄 (共和病院理事長 = 当協会推薦)

団体の部 / 京都きづ川病院 (当協会推薦)

京都府保健医療功労者表彰

個人の部 / 大槻秧司 (亀岡病院理事長 = 当協会推薦)

藤村和正 (北山病院理事長)

団体の部 / 第二岡本総合病院 (当協会推薦)

醍醐病院

京都府看護功労者表彰

山本雅子 (宇治病院総婦長 = 当協会推薦)

森下美代子 (岩倉病院)

医療事業功労者厚生労働大臣表彰

武田隆男 (武田病院会長)

B 事務長会

平成13年度より事務長会は、経営・保険・労務の3部会となり、互いに有機的な連携を保ちながら、それぞれの専門分野において積極的な活動を展開してきた。

1 常任委員会

常任委員会は、事務長会の中核機関として、事務長会独自の企画はもとより、理事会はじめ協会内各委員会からの要請事項に対応するなど、多数の案件を検討し処理してきた。また、刻々と変化する医療情勢を分析しながら情報交換なども活発に行い、病院医療が直面する諸問題に対し、事務サイドから解決を求める努力を重ねてきた。

理事会方針に基づいた各種事業にも積極的に参画し、多くの委員会等に代表を派遣するなど全面的な協力体制をとってきた。

< 役員 >

委員長 石原良次 (京都南病院)

副委員長 秋山俊二 (蘇生会総合病院)、太田 互 (太田病院)、
田中秀和 (京都博愛会病院)、中谷泰幸 (なぎ辻病院)

永井佑二 (京都九条病院)

常任委員 上田正紀(日本バプテスト病院) 大西三津夫(愛生会山科病院)
大槻 均(医仁会武田総合病院) 奥田 守(高雄病院) 垣内安正(長岡病院)
加藤恵三(賀茂病院) 岸本啓介(京都民医連第二中央病院)
小山忠典(吉川病院) 齊藤嘉甫(田辺中央病院) 佐藤 修(京都桂病院)
滋岡嘉弘(宇治黄檗病院平成13.9~) 瀬戸達雄(京都専売病院平成13.9~)
岡本敏雄(相馬病院平成14.4~) 土居 皓(松ヶ崎記念病院)
中江陽一(京都東山老年サナトリウム) 中江美隆(丹後中央病院)
狭間由浩(園部丹医会病院) 樋口吉雄(松本病院)
堀井成彦(ユニチカ中央病院~平成13.8) 八木利之(洛和会音羽病院)
吉岡久雄(洛陽病院~平成14.3) 四井猛士(宇治徳洲会病院)

< 各委員会への派遣委員 >

- ・病院医療制度検討委員会 石原良次、小山忠典
- ・築事委員会 加藤恵三、吉岡久雄(~平成14.3)
- ・救急搬入事故対策委員会 齊藤嘉甫、狭間由浩
- ・私病報編集委員会 上田正紀、大西三津夫
- ・医療安全対策委員会 中谷泰幸
- ・情報開示委員会 大西三津夫
- ・診療報酬委員会 田中秀和、大槻 均
- ・入院環境整備委員会 石原良次、岸本啓介、滋岡嘉弘(平成13.12~)
永井佑二、八木利之
- ・職業紹介事業運営委員会 土居 皓
- ・ホームヘルパー養成事業運営委員会 中谷泰幸
- ・病院機能向上対策委員会 佐藤 修
- ・感染性廃棄物処理問題委員会 永井佑二、中江陽一
- ・保健医療管理者養成講座運営委員会 奥田 守、四井猛士

a 定例委員会

毎月第2金曜日を定例日とし、9回開催。毎回事前に正副委員長会議を開き、委員会の運営等に関して協議している。今期は2月の1回の委員会を拡大委員会とし、全会員の事務長に出席を呼びかけ、多数の参加をいただいた。委員会では、種々の企画立案をはじめ、情報・意見交換を行い、私病協ならびに各病院の抱える諸問題の解決に努めた。また委員会での主な協議確認事項については、必要に応じ会員病院の事務長に報告した。

b 総会 5月11日 於：京都ブライトンホテル

当期の総会では、平成12年度の事業報告ならびに第14期事務長会の役員選出と平成13年度の事業方針について承認および採択がなされた。

c 全体会議 12月14日 於：京都ブライトンホテル

年末の懇親会を兼ねて、全体会議を開催した。会議では平成13年度上半期の事務長会活動報告を行い、また「ITとこれからの病院経営」をテーマに恒例の経営管理講演会を開催した。

d 研修会

1) 12月3日 於：京都リサーチパーク・バズホール(保険部企画)

参加者 / 181名(看護部長会と合同)

「医療制度改革の方向性」

講師 / 福島 豊(衆議院議員・厚生労働委員会理事)

2) 12月14日 於：京都ブライトンホテル(事務長会全体会議)

参加者 / 78名

「ITとこれからの病院経営」(経営部企画)

講師 / 神野正博(医療法人董仙会恵寿総合病院理事長)

3) 2月8日 於：京都府医師会館(2月事務長会拡大委員会)

参加者 / 52名

(1) 「医療機関が該当する労働安全衛生法の解説～滅菌作業におけるEOG(エチレンオキシド)に関する病院の責務～」解説 / 笠井徹也(京都労働局労働基準部安全衛生課 労働基準監督官)

(2) 「医療法人の相続税問題について」講師 / 大川雅司(大川会計事務所所長)

(3) 「ペイオフについて」講師 / 大崎貞和(野村総合研究所リサーチコンサルティング 部門資本市場研究部資本市場研究室長)

e 研修旅行 1月29、30日

先進的な施設見学を通しての研修と、会員事務長間の親睦を図ることを目的に実施している研修旅行。平成13年度は、病院激戦地で積極的な経営戦略を展開されている医療法人近森会を訪問し、大変参考になった。

見学先 / 医療法人近森会(高知市)

・近森病院・近森リハビリテーション病院・在宅総合ケアセンター近森

宿泊 / ホテル三翠園 参加 / 22名

f 他府県病院協会事務長会との交流

1) 近畿病院団体連合会事務長会

・10月19日 於：大阪府病院年金会館・都ホテル大阪(大阪府)

テーマ / 「医療効率化プログラムをどう捉えるか！」

石原委員長、太田・中谷・永井副委員長、四井常任委員出席

・3月15日 於：都ホテル大阪(大阪府)

テーマ / 「診療報酬改定重要四項目」

石原委員長、秋山・太田・田中・中谷副委員長出席

2) その他

兵庫県私立病院協会事務長・看護部長合同研修会

・ 9月8日 於：シーサイドホテル舞子ピラ神戸(兵庫県)

中谷・田中副委員長出席

2 部会活動

a 経営部

1) 部長 秋山俊二 副部長 石原良次

部員 / 大西三津夫 垣内安正 加藤恵三 岸本啓介 樋口吉雄 八木利之

2) 開催日 6/8 7/13 9/14 10/12 11/9 1/11 3/8 4/12 計8回

3) 主な活動

- (1) 平成12年度分病院経営分析調査の実施とその集計 ~ 今回も協力病院に対して解説を添付し結果を報告した。
- (2) 医療法人(社団)の相続税問題について、情報収集および研究を行い、2月の拡大常任委員会において「医療法人の相続税問題」のテーマで、研修会を企画した。
- (3) 事務長会全体会議における経営管理講演会「ITとこれからの病院経営」の企画を行った。
- (4) 入院・外来の分離や一般・療養病床の届出について、情報の早期入手に努めるとともに分析を行った。
- (5) 診療報酬改定についても情報交換を行い、病院経営サイドからの対策についての研究を行った。

b 保険部

1) 部長 永井佑二 副部長 田中秀和

部員 / 上田正紀、大槻 均、齊藤嘉甫、佐藤 修、瀬戸達雄(平成13.9~)土居 皓、中江陽一、狭間由浩

2) 開催日 6/8 7/13 9/14 10/12 11/9 1/11 3/8 4/12 計8回

3) 主な活動

- (1) 国保保険料滞納者の資格証明書による診療について検討を行い、実態把握のために「保険診療費および一部負担金の未収(不払い)に関する調査を実施し、集計結果を協力病院に送付した。
- (2) 医療制度改革ならびに診療報酬改定の内容について、情報の早期入手に努めるとともに情勢の分析を行った。
- (3) 事務長会・看護部長会合同研修会を企画。12/3に「医療制度改革の方向性」のテ

まで講演会を企画した。

(4) 会員からの医療事務に関する照会に対し、専門委員との連携により適切な情報提供に努めた。

(5) 医療事務専門委員会議の運営

委員 / 岡田幸夫 (なぎ辻病院) 小川 勝 (洛和会音羽病院) 高田浩之 (医仁会武田総合病院) 坪田美也子 (京都民医連中央病院) 中野 泉 (日本パプテスト病院) 東山和富 (愛生会山科病院) 村田昌史 (京都博愛会病院) 安井秀志 (京都南病院)
専門委員会議 7/26 9/26 10/24 3/22 4/25 計 4 回

・平成 13 年度医療事務勉強会の開催

11 月 14、15 日 於：コミュニティ嵯峨野 参加 62 名

・その他請求事務に関わる会員病院からの照会については、専門委員を通じてその都度対応した。

c 労務部

1) 部長 中谷泰幸 副部長 太田 互

部員 / 奥田 守、小山忠典、滋岡嘉弘 (平成 13.9 ~)、中江美隆、堀井成彦 (~ 平成 13.8) 吉岡久雄 (~ 平成 14.3) 四井猛士

2) 開催日 6/8 7/13 9/14 10/12 11/9 1/11 3/8 4/12 計 8 回

3) 主な活動

(1) 2001 年度分賃金・労働条件等実態調査の実施とその集計

8 月実施 協力 90 病院 集計表の頒布開始 3 月 1 日

今年度は特別調査として給与(賃金)を決定する方式についておよび職種別スポット給与についての調査を同時実施し、集計結果については賃金表に添付した。

(2) 中堅幹部職員研修会の運営

今年度も労務部の企画運営となり、研修内容についても一層の充実を図った。

(3) 医療安全対策委員会「医療安全対策マニュアル」作成にむけて、事務部門で受け持つ項目について検討を行った。

(4) 休日出勤の割増賃金についての研究を行った。

(5) 2001 年冬期・夏期一時金および春の賃金改定に関する情報収集をおこない、結果を集約し、常任委員会に報告した。

3 地区活動

a 南部地区事務長会

宇治・城陽・八幡・京田辺・久御山・綴喜地区の 19 会員を対象とする南部地区事務長会が、地域固有の話題をはじめ、病院経営に関わる様々な問題について協議・情報交換した。

平成14年4月18日 事務長会 於：宇治市商工会議所

b 北部地区事務長会

中丹、丹後地区の会員14施設を対象とする北部地区事務長会が、経営管理に関する情報交換や北部地区固有の問題について協議・情報交換した。

11月15日 事務長会 於：サンプラザ万助（福知山市）

3月16日 事務長会 於：茶六 別館（宮津市）

C 看護部長会

当部会は原則として毎月第4週に定例会を開催した。定員を設けずに、会員病院の看護管理者であれば誰でも参加出来るオープン参加形式をとり、毎回平均40名前後の参加があった。定例会では、各委員会および各研修会、関連事業所からの報告および情報交換を行った。また相互研修では他部門から講師を招いてのミニ講義、議題に基づいての全体情報交換、グループ討議と様々な形式を取り入れ、そのまとめを私病報に報告した。

<役員>

部会長 山名千代（西陣病院）

副部会長 木下明美（三菱京都病院）、西岡和子（京都武田病院）、山本雅子（宇治病院）、
澤井美智子（第二岡本総合病院）

担当理事 大澤 直

1 総会

5月25日 於：ホテル日航プリンセス京都

出席 / 83名

2 定例会

開催日 5/25 6/29 7/27 9/18 10/30 11/29 1/25 2/27 3/25 4/24 計10回

3 委員会活動

a 総務委員会

看護部長会運営の全般的企画・調整の役割を荷っている。定例会での相互研修の集約ならびに報告についても当委員会が行なった。

委員長 山名千代

委員 木下明美、西岡和子、山本雅子、澤井美智子、高橋美津子（京都博愛会病院）
藤田都司（北山病院）、宇多タエ子（六地藏総合病院）、高尾幸栄（堀川病院）

開催日 7/6 8/6 10/4 11/5 1/25 3/6 4/11 計7回

b 教育推進委員会

看護職員を対象とした年3回の研修会（管理・看護・一般）の企画・運営にあたり、ともに、卒後教育の運営にも協力した。

委員長 西岡和子 副委員長 高尾幸栄

委員 高橋美津子、新井靖子（都倉病院）石崎友里子（桃仁会病院）
小川百合子（シミズ病院）原ムツ子（愛寿会同仁病院）
佐々木美恵子（NTT西日本京都病院）村瀬浩子（京都ルネス病院）
森 洋子（長岡京病院）澤井美智子、庭山英介（長岡病院 平成13.6～）
山名美恵子（ユニチカ中央病院 平成13.6～）
塩見千恵子（京都保健衛生専門学校）
池西静江（京都中央看護専門学校～平成13.8）
石束佳子（京都中央看護専門学校 平成13.9～）

開催日 6/29 7/27 9/18 10/30 11/29 2/27 3/25 4/24 計8回

c 看護業務検討委員会

本年度は、医療安全対策委員会作成「医療安全対策マニュアル」の看護部門を当委員会で担当し、検討を重ねた。

委員長 木下明美 副委員長 藤田都司

委員 中川美代子（西京都病院）
小東美幸（京都地域医療学際研究所附属病院～平成13.12）
高岡みな子（京都回生病院）木佐貫照美（新河端病院）
澤井利子（共和病院 平成13.6～）木下朋子（京都不鴨病院 平成13.6～）

開催日 6/29 7/27 9/18 10/2 10/17 10/30 11/29 2/27 3/25 4/24 計10回

d 福利厚生委員会

婦長相互の親睦を目的として、研修旅行および年数回の懇親会の企画を行った。

委員長 山本雅子 副委員長 宇多タエ子

委員 加藤きみ子（醍醐病院）加藤泰子（京都南西病院）天達節子（長岡河上病院）
海老成子（金井病院 平成13.6～）

開催日 6/29 7/27 9/18 10/30 11/29 2/27 3/25 4/24 計8回

4 研修会

a 一般教養研修会 12/4 中間管理者研修の一般研修と兼ねて開催

「人格があって人間」

講師/栢木寛照（比叡山麓三宝荘住職）

於：京都府医師会館 参加者/262名

b 看護研修会 2/6

「看護職のためのメンタルケア～ストレス対処法について～」

講師/福井みどり（京都桂病院・メンタルケアコンサルタント室長）

於：京都府医師会館 参加者/92名

c 管理研修会 12/3 事務長会と共催

「医療制度改革の方向性」

講師 / 福島 豊 (衆議院議員・厚生労働委員会理事)

於：京都リサーチパークバズホール (協賛：大阪ガス) 参加者 / 181名

5 研修旅行

8月31、9月1日 見学先 / 岡山大学医学部附属病院・三朝分院

宿泊地 / 三朝温泉 (斉木別館・緑水苑)

参加者 / 29名

6 懇親会

a 総会懇親会 5/25 於：ホテル日航プリンス京都 参加者 / 61名

b 新春懇親会 1/25 於：京都ロイヤルホテル 参加者 / 56名

7 各種委員会への委員推薦

a 私病報編集委員会 大滝久枝 (第一岡本病院) 倉田洋子 (吉川病院)

b 卒後教育検討委員会 澤井美智子、高橋美津子、高尾幸栄、西岡和子、新井靖子、
石崎友里子、小川百合子、佐々木美恵子、原ムツ子、村瀬浩子、森 洋子、庭山英介、
山名美恵子、石束佳子 (平成13.9 ~) 塩見千恵子、池西静江 (~平成13.8)

c 病院医療制度検討委員会 木下明美、西岡和子

d 京都府病院協同組合企画委員会 福嶋喜代子

e 無料職業紹介事業運営委員会 高橋美津子

f 保健医療管理者養成講座運営委員会 高橋美津子

g 入院環境整備委員会 中川美代子、木下朋子

h 病院機能向上対策委員会 増井榮 (医仁会武田総合病院) 山名千代

i ホームヘルパー養成講座運営委員会 加藤きみ子

j 介護保険委員会 高橋美津子、加藤泰子

k 感染症対策委員会 大滝久枝、宅和静枝 (京都八幡病院)

l 感染性廃棄物処理問題委員会 福田さよこ (久野病院) 須川裕子 (西京病院)

m 医療安全対策委員会 高岡みな子

n 情報開示委員会 澤井美智子

D 薬局長会

発足19年目を迎え、薬局長としての資質向上を目指す活動に積極的に取り組んできた。内容的にもますます充実し、研修の場として定着している。当会の行う研修会が日本病院薬剤師会生涯研修制度の単位が付与される研修会として認定を受けてから7年が経過し、会員薬局長の励みとなっている。また、会員外の参加も可能なため、他の薬剤関連の職能団体と共

に研修を受け学習する場となっている。

1 運営委員会

- a 委員長 森下菊雄（京都南病院）
副委員長 大西敏之（武田病院） 妻谷多美代（宇治徳洲会病院）
委員 安馬知子（北山病院） 高橋基久（京都きづ川病院）
野崎貴之（愛生会山科病院） 長谷部みどり（吉祥院病院）
藤澤享江（大羽記念病院） 村上恒男（三菱京都病院）
山口京子（京都武田病院）

担当理事 河端一也

- b 開催日 5/17 6/21 7/19 8/3 9/20 10/18 11/16 12/20 2/21 3/15 4/18 計11回

2 全体会議の開催

a 研修会

第67回 8月3日 於：京都府医師会館

テーマ / 「薬剤師のためのインターネット」

講師 / 林 明仁（済生会京都府病院薬剤部）

参加者 / 40施設44名

第68回 11月16日 於：京都府医師会館

テーマ / 「薬剤師のためのインターネット2～医薬品集の作成～」

講師 / 朴井浩明（共和病院薬剤師）

参加者 / 41施設46名

第69回 3月15日 於：京都府医師会館

テーマ / 「薬剤師のための漢方医学」

講師 / 山本恵祥（山本内科小児科医院院長）

参加者 / 16施設20名

E 栄養士部会

疾病治療の一貫である食事療養の重要性と役割について再確認しつつ、管理栄養士・栄養士・調理師の資質向上と栄養管理業務のさらなる改善と効率化に向けた活動を展開してきている。今年度の活動内容としては、季節を問わず多発している食中毒への予防対策や栄養食事指導の実践に向けた研修会を開催するとともに、栄養管理部門での医療安全対策に関し継続して検討を行った。また、平成8年に編集・発行した「栄養管理帳票マニュアル」の改訂作業を行い、京都府病院協同組合の協力のもと、より使いやすく内容を充実させた「2002年版栄養管理帳票マニュアル」を発行した。当部会では今後も様々な角度から栄養管理業務の向上に向けた取り組みを企画・開催していく。

1 運営委員会

委員長 日野千恵子（京都民医連第二中央病院）

副委員長 中森京美（宇治病院） 山根宏子（洛和会音羽病院）

委員 金江加代子（長岡病院） 小崎啓子（介護老人保健施設陽生苑）

田中佐恵子（木津屋橋武田病院） 狭間逸子（賀茂病院）

林 京子（京都専売病院） 平石宏行（京都桂病院）

担当理事 松井道宣

開催日 6/19 7/17 8/21 9/18 10/16 11/20 12/18 1/29 2/19 3/19 4/16 計11回

2 主な活動

a 研修会

5月29日 於：京都府医師会館 参加者 / 101名

テーマ / 「食中毒予防～最近の発生事例と自主点検管理重要ポイント～」

講師 / 光田謙治（京都市保健福祉局保健衛生推進室生活衛生課食品衛生係長）

1月29日 於：京都府医師会館 参加者 / 94名

テーマ / 「嚥下訓練の実際と求められる食事形態」

講師 / 藤本康子（京都桂病院耳鼻咽喉科医長）

三田村啓子（京都桂病院耳鼻科音声言語室）

3月19日 於：京都府医師会館 参加者 / 89名

テーマ / 「栄養管理帳票マニュアル説明会・栄養食事指導研修会」

講師 / 栄養士部会運営委員

b その他の取り組み

・集団栄養食事指導実施状況アンケート調査の実施

・栄養管理部門における医療安全対策

F 臨床検査部会

当部会では、臨床検査技師が幅広い知識を習得することにより、病院で働く一人の医療従事者として、さらなる資質の向上を図るための活動を行っている。今年度も病院検査室全般の運営に関わる諸問題や輸入食材に多く含まれるとされる残留農薬などの危険性について検討課題に取り上げるとともに、近年多発している医療事故に対応するため、輸血事故防止対策についても積極的に取り組んできた。また、昨年度に引き続き、医療従事者のIT技術習得を目的としたパソコンソフトに係る研修会を開催した。

委員会で検討した議事については「臨床検査部会Fax通信」に取りまとめ、毎月、会員病院への情報提供に努めているところである。

1 運営委員会

委員長 / 塩貝邦夫 (三菱京都病院)

副委員長 / 國永清光 (蘇生会総合病院) 松林英樹 (京都南病院)

委員 / 石田洋一 (京都保健衛生専門学校) 豊山浩祥 (京都桂病院)

早川勇人 (医仁会武田総合病院) 林 雅弘 (相馬病院)

福井英人 (堀川病院) 山口俊朗 (京都民医連中央病院)

担当理事 / 大野研而

開催日 6/7 7/5 9/6 10/4 11/1 12/6 1/10 2/7 3/7 4/4 計10回

2 主な活動

a 研修会

9月29日 於：京都保健衛生専門学校 参加者 / 38名

テーマ / 「パワーポイントを使っての初めてのプレゼンテーション」

講師 / 松田幸男 (東芝メディカル(株)関西サービス事業部技術部)

11月1日 「京都市衛生公害研究所見学」 参加者 / 8名 (運営委員)

2月21日 於：京都府医師会館 参加者 / 193名

テーマ / 「医療安全対策関連フォーラム～輸血療法の安全性を高めるために～」

講師 / 河村朋子 (京都府赤十字血液センター)

小黑博之 (京都府立医科大学附属病院)

巽登美子 (医仁会武田総合病院副総婦長)

大賀興一 (第二岡本総合病院院長)

b その他の取り組み

- ・放射線技師部会との合同講演会 テーマ / 「臍 (尾部) 描出法と消化管エコーの実際」・臨床検査部門における医療安全対策についての検討
- ・臨床検査部会 Fax 通信 No.20 ~ No.29

G 放射線技師部会

会員施設において放射線業務に携わる職員を対象に放射線技術の研鑽・院内の業務の効率化を図り、併せて相互に親睦・交流を勧めることを目的として発足した。途中名称を改めてからも13年目を迎え活動内容も益々充実し、例年通り放射線技師に限定せず、幅広い内容、職種を対象とした講演会の企画、開催を行った。また、隔年に発行している講演会の内容やアンケート結果、会員からの研究発表などをまとめた「放射線技師部会誌第6号」を発行した。

1 運営委員会

委員長 井上博志 (洛和会音羽病院)

副委員長 志垣隆一 (宇治徳洲会病院) 本郷隆治 (京都桂病院)

委員 井上幹也(三菱京都病院) 岩崎和幸(武田病院) 梅村賢仁(富田病院)
尾花吉彦(京都工場保健会診療所) 桑原寛行(宇治病院)
斉藤孝行(京都南病院)

担当理事 小森直之

開催日 5/10 6/12 7/11 9/11 10/9 11/2 1/8 3/12 4/9 計9回

2 主な活動

a 講演会

第44回 7月11日 於：京都府医師会館

テーマ / 「胸部X線画像の基礎」

講師 / 池田貞雄(洛和会音羽病院 呼吸器センター所長)

参加者 / 28施設42名

第45回 11月2日 於：京都府医師会館

テーマ / 「医療とIT(放射線部門における)」

「画像とネットワーク」 「オーダリングシステムについて」 「電子カルテとネットワークについて」

講師 / 古川善之(東芝メディカル株式会社関西システム担当)

事例報告 / 井上幹也(三菱京都病院放射線科主任) 菊元力也(洛和会音羽病院放射線部主席係長)

参加者 / 25施設37名

第46回 2月1日 於：株式会社島津製作所研修センター

テーマ / 「臍(尾部)描出法と消化管エコーの実際」

(1) 「島津デジタル超音波診断装置のご紹介 SDU-1200・2200の特長ならびに開発エピソード デジタル超音波装置の将来展望」

(2) 「臍(尾部)描出法と消化管エコーの実際」

講師 / (1) 安藤昌人(株式会社島津製作所医療機器事業部マーケティング部)

(2) 井出 満(岸和田徳洲会病院超音波検査室技師長)

参加者 / 31施設50名 共催 / 臨床検査部会

H 情報システム運営委員会

会員間の効率的な情報ネットワークづくりに向けて検討した。

社会における情報通信技術の高度化と広がりは一層進むとともに、会員病院の日常業務においても、情報技術の活用は欠かせないものになってきている。委員会では、協会活動のなかで効率的な情報交換がおこなえる方法を検討している。当協会のWebページの運営もそのひとつで、会員を対象に医療情報の提供を、また一般に対しては協会の活動を紹介する情

報を掲載している。さらに13年度からは、双方向のネットワークを導入する契機にするため
会員を対象にメールマガジンを発刊し、月2回程度の発信をおこなっている。

今後とも、膨大なデータを柔軟にかつ簡便に処理できるインターネットの特性を活かした
ネットワーク事業を追求していくことにしている。

開催日 8/30

委員 中野種樹、河端一也、小森直之（以上、理事）

大槻俊知（武田病院）、中尾 誠（京都きづ川病院）

I 病院機能向上対策委員会

当委員会は、会員病院の医療機能の向上を図ることを目的として活動している。委員は、
（財）日本医療機能評価機構のサーベイヤー（医師部門・看護部門・事務部門）を中心に構成さ
れ、今年度は会員病院に対する医療機能評価事業に関する情報提供と受審相談への対応を中
心に活動し、京都でのサーベイヤーの増員に向けた働きかけについても、徐々に成果を挙げ
てきているところである。

今年度の活動のうち、とりわけ拡大委員会においては、医療機能評価認定病院から担当者
にお集まりいただき、受審に至った経緯や目的、準備段階で特に苦労した点、認定後の取り
組み状況に関して情報交換を行った。情報交換で出された意見や感想および各認定病院にお
ける最近の取り組み状況、さらには新評価項目体系のポイントをまとめて京都私立病院報に
掲載した。

1 委員会

委員長 中野種樹

委員 秋山俊二 板坂 勉 岡本豊洋 佐藤 修 戸津崎茂雄 増井 榮 山名千代

開催日 6/28 9/26 11/28 4/19 計4回

2 主な活動

病院機能向上対策拡大委員会

11月28日 於：京都府医師会館 参加者 / 19名

J 地区会議

会員相互の連帯を深めるとともに執行部と会員の情報交換と親睦を図る目的で毎秋地区会
議を開催している。本年度は北部・南部および京都市域の3か所で開催した。医療制度改革
や次期診療報酬改定にまつわる様々な問題をとりあげたほか、京都における救急医療体制と
りわけ小児科の時間外救急問題、当協会の情報ネットワークの仕組みなどについて、会員の
理解を求めた。また、各地区がそれぞれ抱える問題点についても懇談をおこなった。

1 京都市域 10月24日 於：京都府医師会館

参加 / 地区会員 48 名

地区議題 / 「生き方探求・チャレンジ体験」推進事業(京都市教育委員会)

2 北部地区 11月2日 於:たかた荘(福知山市)

参加 / 地区会員 13 名

地区議題 / 市町村合併による各病院の対応

3 南部地区 11月14日 於:文化パルク城陽

参加 / 地区会員 27 名

地区議題 / 増床問題、二次輪番制度の再確認、インフルエンザ予防接種の公費負担問題

K 新春会員懇親会

年頭における恒例行事として定着した新春会員懇親会を今年度も講演会とあわせて開催した。講演会では「21世紀の経営」をテーマに株式会社堀場製作所会長の堀場雅夫氏にご講演いただいた。

講演では、21世紀は医療界においても信頼のおける技術・設備を持つ医療機関に患者が集まり、より一層医療機関の選別が行われるのではないか。これに対して、経営者や従事者1人1人の資質が今後の経営に影響を及ぼすことになる。21世紀は「個の時代」であり、1人1人が生きがい、働きがいを持つことによってそれに共感する人が集まり、新しい集団のエネルギーが生まれる。神は必ず人に一物を与えており、それぞれが持つすばらしい面を引き出し、伸ばしていく職員教育が必要であると述べられた。

当日は、来賓として草木京都府副知事、高木京都市副市長をはじめ関係各方面から多数の方々にお越しいただき、懇親会においてご祝辞をいただいた後は終始和やかな雰囲気の中で会員同士あるいはご来賓の方々との交流が続いた。

1月19日 於:京都全日空ホテル 参加者 / 224 名

講演 / 「21世紀の経営」

講師 / 堀場雅夫(株式会社堀場製作所)

L 創立37周年記念式典

協会創立37周年を迎え、毎年恒例となっている記念式典と祝賀会を開催した。当日、会場には関係各方面から臨席を賜り、記念式典では会員各病院から推薦された永年勤続・優良職員の表彰が行われた。また、今年度より記念式典において保健医療管理者養成講座卒業生について、保健医療管理士としての認定を行うことになり、第10期20名に対して認定証が授与された。記念式典後の祝賀会においては、「フローティング・ネスト」によるバンド演奏や京都府病院協同組合の提供による「お楽しみ抽選会」もあり、会員間での交流が一層深められた。

11月30日 於：京都ホテル 参加者総数 / 280 余名

永年勤続・優良職員表彰 / 151 名

ご来賓 / 田坂幾太 (京都府議会議員・京都府私立病院振興議員連盟会長)

戸田雄一郎 (京都府保健福祉部長) 野田広 (京都市保健政策監)

横田耕三 (京都府医師会長) ほか

広報活動および情報サービスの充実

A 京都私立病院報

「京都私立病院報」は、当協会における基幹広報誌として、毎月1回1日に定期発行している。編集には、担当理事、事務長会、看護部長会からの委員で構成される私病報編集委員会があたり、編集会議を毎月上旬に開催している。内容については、当協会の活動を中心に、時々の医療の動向を伝えるニュース、執行部の方針や解説、私的病院を取り巻く重要事項の伝達、毎月の各種会議の議事録、また会員からの投稿記事や会員消息を可能な限り掲載することにより、会員相互のコミュニケーションを図っている。執筆はできるだけ多くの方々に依頼するよう考慮している。また、表紙には会員病院に所属する方々の絵画作品や写真をご紹介している。作成費や郵送料が高騰している折、ある程度広告収入に頼らざるを得ず、広告募集を積極的におこなっているところである。現在の発行部数は約2300部で、会員病院へは会費金額に応じて冊数を設定し送付している。また関係行政機関、国会・府市会議員、関係諸団体、その他の購読契約者へ配布している。

1 私病報編集委員会

委員長 中野種樹 (副会長)

委員 梶並稔正、久野成人、吉川 聡 = 以上理事

大西三津夫、上田正紀 = 以上事務長会

大滝久枝、倉田洋子 = 以上看護部長会

開催日 4/11 5/16 6/14 7/11 8/8 9/7 10/11 11/13 12/12 1/17 2/13 3/11

計12回

2 発行回数

13回発行 第451号 (4月号) ~ 第463号 (3月号)

そのほか、452 臨号 (総会号議案書) を発行。

B 私病協情報サービス

本紙は、月に2回各紙新聞記事より、医療関係のニュースのほか労務管理に関わる情報までを集め、冊子にして発行しているもので、会員病院への情報提供のひとつとして定着して

きている。

発行 / 原則として月 2 回 (1 日・16 日) 発行 No.356 ~ 378

利用紙 / 一般商業新聞 5 紙発行部数 / 84 部

C 感染症対策に関する広報活動

腸管出血性病原性大腸菌 O 157 の発生を契機として、世界的規模での発生が恐れられる新興・再興感染症などに対する危機管理意識の高まりから、厚生労働省、行政による感染症対策が積極的に図られるようになった。当協会では、春から夏の時期にかけて行政の対策本部と綿密な連携のもと、感染症対策について必要な情報を迅速に会員に伝達したほか、前年に続いて京都府・京都市からの依頼にもとづき会員病院の診療体制を調査し、「O 157 患者の後送受入医療機関リスト」作成に協力した。

D 協会ホームページ

当協会のおこなっている活動や会員病院などに関する情報を広く紹介していくため、ホームページを開設している。運営に当たっては、情報システム運営委員会で内容や掲載方法などについて企画・検討をおこなった。

主な内容は、協会の事業紹介や医療界の新着情報、催しの案内、会員施設の紹介、医療関連へのリンク集など。また新たに無料職業紹介事業のページを設けたほか、メールマガジンの発行によりサイトの補完を図った。会員同士あるいは会員と協会とのコミュニケーションツールとしての活用をめざし、今後更に内容を充実させていきたい。

京都私立病院協会ホームページ <http://www.khosp.or.jp>

京都私立病院協会メールアドレス info@khosp.or.jp

E その他の広報活動

上記のほか、緊急を要することからについて、ファクシミリ、メールマガジンなどを用いて随時連絡をおこなった。

病院職員の確保対策への取り組み

A 養成事業

看護婦の養成については、京都保健衛生専門学校・二年課程全日制 1 クラス 40 名、昼間定時制 1 クラス 40 名、三年課程 1 クラス 40 名、京都中央看護学校 2 クラス 80 名の養成が引き続き行われているが、入学後の進路変更や結婚・出産等による退学・留年が少なからずあり、順調とは言いがた状況もでてきている。

京都保健衛生専門学校は、平成 9 年 3 月 4 日付で学校法人となり 5 年が経過し、平成 13 年

3月に3期目の理事長として清水紘、学校長に大澤直が就任し、少子化の時代における厳しい学校運営にあっている。保健衛生専門学校における臨床検査技師の養成は、昼間・夜間を併せて80名の定員を確保することが難しい状況にあるが、臨床工学技士専攻科は定員20名で応募者、国家試験合格率ともに順調に推移している。

B 医療従事者無料職業紹介事業への取り組み

会員病院を中心に京都府下の医療機関における安定的な人材確保に寄与していくことを目的に開設され、厚生労働大臣の許可を得た私病協医療従事者無料職業紹介所も発足後14年が経過した。

平成13年度の取扱状況は以下に示す通りであるが、医療機関の経営状況の逼迫からか全体的に求人数が伸び悩み、紹介実績の確実な増加には結びついていない。職種別の需給状況を見ると、医師、看護職の登録は極めて少ない。また放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士などの職種は医療機関からの求人が極めて少ない状況にあり、需要と供給のバランスを欠いている。

職業安定法が改正され紹介職種の規制がなくなり、全ての職種(一部除く)が紹介できることになったが、当協会の職業紹介事業の目的から鑑み、現職種にホームヘルパー、ケアマネジャーを追加した。今後とも社会状況をみながら取扱い範囲の拡大を図っていきたいと考えている。昨年の試みに引き続き、本年度も「就職フェア・面談会」を開催。求人施設が56施設と大幅に増え、これに対する期待の大きさが窺える。更に当紹介所の活動を各方面にご理解していただきながら、求人者、求職者の開拓に努力していききたい。

1 職業紹介事業運営委員会

a 運営委員

板坂 勉(担当理事=運営委員長)、秋山俊二(担当理事)、太田 互(担当理事)
土居 皓(事務長会)、高橋美津子(看護部長会)、吉田多美(事務局)、
富田昌則(紹介責任者)

b 運営協力委員

妻谷多美子(薬局長会)、岩崎和幸(放射線技師部会)、山口俊朗(臨床検査技師部会)、
金江加代子(栄養士部会)

c 開催日 7/24 10/9 11/6

2 主な取り組み

a 新聞求人欄に広告掲載をおこなった。

8月25日、10月26日(京都リビング)

b 私病報への「求人情報」を連載した。

c 就職フェア・面談会を開催した。

11月6日 於：京都府医師会館

求人参加 / 56施設 求職参加 / 27名

3 求人・求職・紹介状況(平成14年3月31日現在)

求人申し込み数 535人、求職登録者数 31人、紹介件数 4件、就職者数 3件

医療制度の検討

A 病院をとりまく情勢

平成13年になり中央省庁の再編で厚生労働省が発足。社会保障や雇用など国民生活に直接関わる業務全般を所管することになった。坂口厚労相は「患者安全推進年」と位置づけ、病院には一層医療安全対策を求める声が強まった。

病院の経営状況では、全国の13年度病院運営実態分析調査(日本病院会・全国公私病院連盟)によると、<100床当たり収支金額>の総収支比率は前年に比べ0.3ポイント悪化し105.8に。同様に<医業収支比率>も0.6ポイント悪化し104.1となるなど、依然厳しい状況となっている。それに加え14年4月からの診療報酬改定は初のマイナス改定となり、包括や減算措置の拡大、逡減制の強化などにより、実際の診療収入は公表されている-1.3%(薬価を含め-2.7%)を大きく下回り、病院運営に甚大な影響を与えると予想される。

医療制度改革の議論には、内閣府に設けられた総合規制改革会議や経済財政諮問会議あるいは財務省などが、医療分野について医療費抑制と医療の効率化の姿勢を相次いで迫ったことも大きな影響を与えた。今回の診療報酬改定は、そうした小泉内閣が掲げる「聖域なき構造改革」のもと、政府や財界主導の医療制度改革の方向に踏み込んだ内容であり、さらに改正医療法で規定された新たな病床区分と連動もしている。改定のベースには、大幅な保険給付の制限、受診抑制があり、200床以上病院の外来診療料や180日超入院の特定療養費化など患者負担の拡大に現れている。これまで医療の周辺部分に限られていた特定療養費制度を、医療本体にまで拡大してきたことは、医療を必要とする多くの患者に適切な医療を提供できなくなる状況が考えられる。

患者負担増による医療保険改革に反対して、医療関係団体が署名運動や決起大会をおこない全国的な運動にまで広がったが、健保3割自己負担は平成15年度からの実施、老人医療費の伸びを適正化するための指針策定、診療報酬の引き下げが政府与党内で合意された。

介護保険施行後2年が経過し、医療保険医療費の伸びが初めてマイナスに転じた。介護力強化病床は15年3月末までとされており、会員病院における介護療養型病床への転換も進んだ。特に京都市内では介護保険計画上の目標数に到達する状態となった。介護のサービス面では、拘束廃止に向けた動きが伸展し、これからの医療内容を検証していく上で何らかの影響を与えていくことが危惧される。

病院での医療事故が社会的にクローズアップされ、診療報酬上も医療安全管理体制を整備することが前提とされたこともあり、医療界内部でも医療安全対策への取り組みの動きが活発化した。そのほか、国民からのニーズとしては、広告規制の緩和、情報開示を求める声もさらに高まっていくことが予想される。

今後の展開としては、医療のIT化推進、医療機関の民間企業経営、医療保険一元化問題が医療改革のテーマとして引き続き議論されていくものと思われる。

B 病院医療制度検討委員会

本委員会は協会の理事、事務長会・婦長部会・薬局長会からの委員、および会員の医師から構成されており、病院をとりまく様々な問題について、特に医療制度、保険制度の面から検討・分析をおこなった。検討した結果を理事会などで報告・提案したほか、「私病報」誌上にはニュース記事として提供した。

保険制度では介護保険がスタート後1年を経過し、さまざまな問題が浮上してきた。また小泉内閣が発足し、「聖域なき構造改革」のもと、内閣府や厚生省から出される医療制度改革に向けた方針、あるいは日医からの対案などを中心に議論をおこなった。

1 主な検討項目

- a 医療保険・介護保険にかかる情勢
- b 混合診療をめぐる話題
- c 医療保険制度改革（高齢者医療を中心に）
- d 厚生労働省「医療制度改革試案」
- e セコムのMEDICOM（がん保険）
- f 診療報酬改定をめぐる情勢
- g 14年度政府予算案の内容
- h 健康保険制度改革案

2 委員

清水 紘・中野種樹（担当副会長） 清水鴻一郎・戸津崎茂雄・松井道宣・小森直之・岡本豊洋（理事） 石原良次・小山忠典（事務長会派遣） 木下明美・西岡和子（婦長部会派遣） 藤澤享江（薬局長会派遣） 山根宏子（栄養士部会派遣）

3 開催日

7/12 9/13 10/11 11/8 12/13 1/24 2/14 3/14 4/11 5/9 計10回

病院団体との交流

A 近畿病院団体連合会

1 委員会 当番 / 兵庫県私立病院協会

a 第1回委員会 10月26日 於：新神戸オリエンタルホテル(神戸市)

<主な議題>

平成13年度役員選出

委員長 / 安田俊吉(兵庫県私立病院協会会長)

副委員長 / 月山和男(和歌山県病院協会会長)

松浦梅春(兵庫県私立病院協会副会長)

協議事項

- 1) 二次医療圏ごとの既存病床数に一部の老人保健施設の病床がカウントされている問題について
- 2) 急性期病院加算の紹介率(30%)算定方式の矛盾点と見直しについて
- 3) 2002年度医療制度改革について

情報・意見交換

- 1) 容積率制限等にかかる特例制度の運用についての各府県の状況報告
- 2) 介護保険料の未納者の取扱いについて
- 3) 各府県における院外処方箋の発行率について
- 4) 病院情報システム構築にかかる傷病名の統一ならびに医薬品および診療材料等の名称の統一・コード化の早期実現について
- 5) 感染症対策の費用について

b 第2回委員会 14年3月22日 於：新神戸オリエンタルホテル(神戸市)

<主な議題>

講演

「医療制度改革と今後の病院経営について」

兵庫県病院協会副会長 赤穂市民病院長 邊見公雄

協議事項

- 1) 6ヶ月以上入院している患者の取扱いについて
- 2) 診療録管理体制加算について
- 3) 感染症対策費について

要望書のとりまとめ(資料 -)

情報・意見交換

- 1) 診療報酬改定について～減算対象となる褥瘡対策・医療安全対策のマニュアルに

ついて

- 2) 新しい医療制度改革の対応について
- 3) 医師臨床研修制度について

報告事項

- 1) 病院建替え・増改築等に伴う行政機関に対する「規制緩和の要望」とその結果について
- 2) 近病連事務長会報告

2 事務長会 当番 / 大阪府私立病院協会

- a 第1回事務長会 10月19日 於：大阪府病院年金会館コンベンションルーム(大阪市)

<主な議題>

- 1) 各協会事務長会活動報告
- 2) シンポジウム「効率化プログラムをどう捉えるか！」

基調報告

シンポジウム 株式会社の医療参入 医療費総額の伸び抑制～DRG/PPS
包括性拡大 公的保険と自由診療の併用～自由診療がん保険
(セコムのがん保険) 保険者と医療機関との直接契約

決議文採択

- b 第2回事務長会 3月15日 於：都ホテル大阪(大阪市)

<主な議題>

- 1) 各協会事務長会活動報告
- 2) シンポジウム「診療報酬改定重要四項目」

基調報告

シンポジウム 薬価・医療材料改定対策 長期入院のあり方 包括化の拡大 特定療養費への対応

B 中央における病院団体

中央における病院団体、日本病院会・全日本病院協会・日本医療法人協会・日本精神病院協会は四病協として統一して活動を開始しており、病院の意見の代表として注目されて来ている。当協会から役員を派遣し、情報の収集と意見の具申を積極的に行っている。

1 日本病院会

役員派遣 / 副会長：武田隆男 理事：赤松春義(宇治病院)
代議員：清水 紘 ・真鍋克次郎

2 全日本病院協会 / 役員派遣 理事：清水 紘

3 日本医療法人協会 / 役員派遣 常任理事：武田隆久 代議員：小森直之

京都府内における医療団体との連携

A 京都府医師会

平成8年より実施している保険医療問題懇談会も2ヶ月に1度を目安に定期的に開催され、その都度の保険医療問題について協議し、その機能を果している。また、介護保険についても、意志の疎通を図るとともに介護保険制度の円滑な運営にむけて協同して活動を行ってきた。古くて新しい問題である救急医療についても、意見の統一を図り京都府へ要望をするなど同一歩調をとっている。(詳細別記)

1 各種委員会への委員の派遣

企画委員会 吉川順介

労災・自賠責委員会 真鍋克次郎

救急委員会 吉川順介 中野博美 西村幸隆(室町病院) 真鍋克次郎
角能庸介(石丸庸介・田辺中央病院) 山里有男(武田病院)

学術生涯教育委員会 真鍋克次郎 近藤泰正

地域ケア委員会 清水 紘

2 催しへの共催・後援

a 「第28回くらしと健康展」への後援

9月22日、23日 会場/京都府総合見本市会館パルスプラザ

b 介護保険関係での数々の催しや調査への共催及び後援

B 京都府病院協会

平成13年6月10日、第36回京都病院学会を両協会が協力して開催した。また、14年度6月に開催する第37回京都病院学会の開催に向けて準備を開始した。(詳細別記)

C その他

1 平成13年度「看護の日」事業への後援

5月12日 会場/京都駅前地下街ポルタ中央広場 他

2 第9回京都府老人保健施設大会への後援

11月10日 会場/京都府医師会館

3 「01平和のための京都の戦争展」への後援

7月31日～8月9日 会場/立命館大学国際平和ミュージアム中野記念ホール

4 京都府保険医協会「許すな医療・社会保障改悪、いのちとくらしを守る2001年近畿決起大会」への賛同

11月17日 会場/大阪・扇町公園

- 5 「患者負担大幅増に反対する京都府民決起集会」の主催団体
11月27日 会場 / 京都産業会館 8階・シルクホール
- 6 京都府看護協会「第9回地域保健市民フォーラム」への後援
14年2月2日 会場 / ミヤコメッセ
- 7 京都府保険医協会「公開府民フォーラム」への後援
14年3月16日 会場 / 京都産業会館シルクホール
- 8 第22回近畿理学療法学会への後援
14年2月10日 場所 / 京都 t エルサ
- 9 京都皮膚科学会「創倉治療フォーラム in 京都」への後援
14年2月7日 場所 / 京都ホテル

行政への対応

一段と厳しい経営環境の中で地域医療を担う民間病院を守るために、行政とは絶えず話し合いや要望活動を実施してきた。民間病院への国庫補助制度の活用を図るため、京都府の積極的対応の要請、介護保険制度の実施に伴う様々な問題について状況を把握し、会員へ情報提供すると共に会員の意向を行政へ反映さすべく京都府及び京都市担当課との話し合い等をおこなった。行政が行う医療機関に対するお知らせや調査等の協力依頼についてその都度積極的に対応した。（詳細は各々別記）

平成13年3月に施行された第四次医療法改正により、地域医療計画の見直しが行われ、医療圏ごとの基準病床数の計算方式が変更され、また、平成15年8月末日までに現在のその他病床を、一般病床と療養型病床とに届出を行うことになり、それに伴うさまざまな問題が生じている。

新医療法基準に見合う病院の建替え、それに伴う容積率の問題については、京都市・京都府の所轄部署へ国の指導に沿った緩和をおこなうよう要請した。

現状の医療計画で病床不足地域となっている医療圏(京都・乙訓医療圏を除く残りの5医療圏)での増床計画の申請について、医療審議会に意見書を提出し、地域の実情に見合った公平な結論がでるよう働きかけをおこなった。

平成14年度の京都府・京都市予算に対しても以下の要望を行った。

A 京都府

1 平成14年度京都府予算への要望

< 要望内容 >

感染性廃棄物処理経費への財源措置と適正業者の確保への支援
看護学校の運営に対する助成

理学療法士・作業療法士の養成に対する要望

感染症等の発生に伴う病院の予防医療活動への支援

医療事故防止対策への取り組みへの支援

民間病院への融資制度の抜本的見直し

小児救急医療体制の整備とそれに伴う財源措置

については、早急に病院群輪番制度による小児専門の当番病院を設置し、これを府民に公開し、小児急患に対応できる窓口を拡大していく必要性を訴えた。

2 各部審議会等への委員の派遣（京都府・京都市以外の行政関連を含む）

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 京都府医療審議会 | 武田隆男 |
| 京都地方社会保険医療協議会 | 武田隆男 |
| 京都府救急医療情報システム運営懇談会 | 真鍋克次郎 |
| 京都府血液製剤使用に関する懇話会 | 吉川順介 |
| 京都府周産期医療協議会 | 真鍋克次郎 |
| 京都府地域リハビリテーション協議会 | 出射靖生 |
| 京都府地域リハビリテーション協議会実務者検討会 | 八木秀雄（康生会 武田病院） |
| 京都府不妊専門相談センター検討会 | 福岡正恒（福岡医院） |
| 総合周産期母子医療センター運営会議 | 山本義昭（医仁会武田総合病院） |
| 京都府看護職員需給見直し検討会 | 吉川順介 板坂 勉 |
| 国保連介護サービス苦情処理委員会 | 吉川 聡 |
| 京都労働局雇用均等行政協助手員 | 吉田多美 |

3 京都府主催の行事への後援や調査依頼等への協力

例年どおり「愛の血液助け合い運動」や「エイズ研究会」への後援や平成14年4月から更新される「救急医療情報システム」についての広報活動に協力した。

B 京都市

1 平成14年度京都市予算への要望

< 要望内容 >

看護学校の運営に対する助成

感染性廃棄物処理経費への財源措置と適正業者の確保への支援

感染症等の発生に伴う病院の予防医療活動への支援

医療機関に対する上・下水道料金の軽減措置

小児救急医療体制の整備とそれに伴う財源措置

については、昨年と同額の助成を確保することが出来た。

については、夜間の小児救急体制が手薄であり、二次病院群輪番体制の小児当番を複

数箇所設置し、また、これの情報を公開することにより、小児急患の対応の窓口を拡大していくことを求めた。

2 各部会・審議会等への委員の派遣

| | |
|------------------------|-------|
| 京都市社会福祉審議会臨時委員 | 武田隆男 |
| 京都市健康づくり協会 | 武田隆男 |
| 京都市H I V感染症対策専門委員会 | 清水正啓 |
| 財団法人京都市休日急病診療所理事会 | 吉川順介 |
| 財団法人京都市休日急病診療所運営委員会 | 近藤泰正 |
| 救急救命士に関する懇話会 | 真鍋克次郎 |
| 大災害発生時の救急医療体制整備に関する研究会 | 清水 紘 |

3 京都市教育委員会の要請により中学生を対象にした「生き方探求・チャレンジ体験」推進事業について周知を行い、病院での体験希望者に門戸を開くことに助力した。

関連団体との連携

当協会には、京都保健衛生専門学校、京都中央看護学校の2つの学校と京都府病院協同組合、京都府病院厚生年金基金の4つの関連団体がある。京都保健衛生専門学校は、設立以来永年当協会が直接運営を行ってきたが、平成9年3月学校法人京都保健衛生専門学校の認可を受け、独立した組織として出発し5年が経過した。

それぞれの団体は、協会活動のなかから必然的に生まれた組織であり、各団体には協会の会員が参加しており、5つの団体が十分連携をとりながら業務を進めていくことが大事であり、そのことを念頭に置いた組織運営がなされている。

各団体の役員には私病協の執行部からの役員派遣を行い、各団体の事務局責任者が私病協理事会へ出席することにより相互の業務の理解が深まるよう運営が行われている。

従来から5団体の職員の賃金及び労働条件については、業態の独自性を保ちながらも基本は同じということで組織運営がなされているが、今回、時代に適合した賃金体系への見直しと適材適所を念頭に積極的な人事異動を行うことを目指し、検討を行っている。

職員人事（平成14年4月1日現在）

A 京都私立病院協会

事務局長 / 吉田多美

事務局員 / 野村 浩（局長補佐）、富田昌則（課長）、津崎桂子、岡本哲治、木村仁美、竹内 誠

B 京都保健衛生専門学校

事務局長 / 松崎祥三

1 事務局

事務次長 / 奥村 隆

事務局員 / 佐藤真喜子 (課長)、岸本靖子、野田照子、石井順子、磯田典子、安馬好美、
衣川美佳、吉岡 清

2 教務

a 看護学科

副校長 / 塩見千恵子

1) 看護学科三年課程

教務主任 / 岡むつ美

教職員 / 角田富久子、外山絹子、白波瀬裕美、斎藤祥乃、上野佳穂、那須さとみ、
渡辺友理子、瀧川結子、南田喜久美

2) 看護学科二年課程 (全日制)

教務主任 / 高橋みどり

教職員 / 山本美枝、川戸美智子、吉野久美子、谷本千亜紀、嵐 恭子、松田季子

3) 看護学科二年課程 (定時制)

教務主任 / 岩下チエ子 副教務主任 / 谷川寛子

教職員 / 黒木美智子、上仲洋子、橋村多喜栄、藤原浩子、山本直子

b 臨床検査学科

教務部長 / 石田洋一

教務主任 / 田尻 睦、小澤 優

教職員 / 前川由起子、宮野 亘、相良郁夫、後藤直樹、桐明直美

c 臨床工学技士専攻科

教務主任 / 生駒俊和

教職員 / 泉田洋志

C 京都府病院協同組合

事務局長 / 平池恵一

事務局員 / 須賀修司 (次長)、杉浦瑞江 (課長)、村上 衛 (主任)、篠田美津代、木股亜由美、
山本順子、松村浩史、田村篤志

D 京都府病院厚生年金基金

常務理事 / 齊藤武志

業務課長 / 高田滋之

主任 / 藤原節子

事務職員 / 大喜多智子、船引奈留美

E 京都中央看護専門学校

校長 / 佐野 豊

事務局長 / 島田崇志

事務部長 / 武村雄一

事務職員 / 藤木明美、蒔田耕一、若林典子、出野 順

副校長 / 池西静江

教務部長 / 石束佳子

教職員 / 池田万喜子、松田弥生、池田美晶、渡邊江身子、岡田由岐子、上山みゆき、
阿形奈津子、大藤 栄、陶山ヤス子、山室仁美、阿部真理、山田美恵子、武藤輝子、
原田清美、森 三希子、仲倉高広

【保 險 部】

医療保険・関係諸法

A 入院基本料等基準・施設基準

今年度も引き続き入院基本料等基準・施設基準対策を重点課題の一つとして位置づけ、会員病院の各種基準の取得を促進するとともに、適正な運用の援助に努めてきた。具体的には、会員病院から届出前の相談を受け付け、参考資料や医療保険に関する情報を提供し、また京都社会保険事務局および京都府保健福祉部高齢化対策課等との連絡・調整、会員病院に対する適時調査への立ち合いと事後処理への協力などの活動を行ってきた。とりわけ、各種施設基準に対する適時調査に付随した諸問題の処理にあたり、行政指導の現状と基準運営上の留意点について会員病院に周知した。さらには、京都府下における各種基準や適時調査の取り扱いについて、定期的に保険担当理事と京都府医師会との間で意見・情報交換を行い、適正な行政指導が実施されるように提言してきた。

医療保険制度への適正な対応は、会員病院にとって共通の課題であることから、今後も適正かつ円滑な基準運営が行えるよう、積極的な対応を図っていく。

1 各種基準相談

会員病院から医療保険に関する相談を受け付け、助言を行いつつ各種マニュアルや参考資料を提供してきた。各種基準の届出時はもとより、適時調査の前夜や届出内容変更時の相談にも随時対応している。

2 適時調査対策

保険医療機関に対する入院基本料等基準・各種施設基準届出後の適時調査の状況については、平成13年度で会員56病院が対象となり、その内、35病院について届出後の調査が実施された。当協会では適時調査前後の対応はもとより、日常的な自主点検の重要性を会員に呼びかけている。調査前には、最近の行政指導の傾向を踏まえた上で、調査にあたっての留意事項を取りまとめたチェックリスト(入院基本料、入院時食事療養、薬剤管理指導、理学療法)を事前に調査対象病院に配布して、事前の自主点検と早期改善を促している。

3 実施状況報告書点検サービス

京都社会保険事務局に入院基本料、入院時食事療養、理学療法・作業療法等の施設基準を届け出ている病院に対して、四半期ごと(1月・3月・7月・10月)に提出が求められる実施状況報告書の点検サービスを引き続き実施した。点検は、会員病院が京都社会保険事務局に報告書を提出した後に行っており、各基準の欠格状態の長期間放置を未然に防止することを第一の目的としている。

点検業務は会員からの申し出により実施しており、3月末現在で30余りの会員病院に対

して点検を行っている。当協会では今後もこのサービスを継続し、希望に応じて提出不要月分についても点検を実施する。

4 会員病院における病床区分の状況

(平成14年3月1日現在。右の()内は平成13年3月1日の状況)

| | |
|---------------------------|-------------|
| a) 会員数(病院のみ) | 141病院 (141) |
| b) 病棟種別による内訳 | |
| 一般病棟のみ | 63病院 (62) |
| 一般病棟 + 療養病棟 | 38病院 (38) |
| 一般病棟 + 老人病棟 | 5病院 (7) |
| 一般病棟 + 精神病棟 | 1病院 (1) |
| 一般病棟 + 結核病棟 | 1病院 (1) |
| 一般病棟 + 療養病棟 + 精神病棟 | 1病院 (0) |
| 一般病棟 + 精神病棟 + 療養病棟 | 1病院 (1) |
| 一般病棟 + 精神病棟 + 結核病棟 + 療養病棟 | 1病院 (1) |
| 療養病棟のみ | 14病院 (13) |
| 療養病棟 + 精神病棟 | 1病院 (0) |
| 老人病棟のみ | 2病院 (3) |
| 老人病棟 + 精神病棟 | 2病院 (2) |
| 老人病棟 + 精神病棟 + 療養病棟 | 0病院 (1) |
| 精神病棟のみ | 11病院 (11) |

B 医療保険担当理事会議

毎月第3水曜日の理事会終了後、医療保険担当の理事による会議を開催している。会議では医療保険と介護保険の動向について確認しながら、表面化してきた諸問題への対応策について検討している。

今年度も、入院基本料等基準、その他の施設基準の届出受理状況や適時調査の実施状況、療養型病床群の届出および介護療養型医療施設の指定状況等を把握しつつ、その時々での医療保険ならびに介護保険に関する諸問題について協議してきた。また、京都府医師会との保険医療懇談会に向けた提案議題と意見の取りまとめも行った。

開催日 7/18 8/22 9/19 10/17 11/21 1/16 2/20 3/20 4/17 計9回

C 京都府医師会との保険医療懇談会

定期的に開催している府医との保険医療懇談会を、今年度は3回開催した。この懇談会はその時々での医療保険に係る諸問題について協議、情報交換する場であるが、今年度はとり

わけ、個別指導や基金・国保の審査状況の把握および各種基準の適時調査をめぐる諸問題への対応、さらには、日本医師会「医療・介護経営実態調査」への協力、国保「被保険者資格証明書」の取り扱い、療養型病床群入院患者の他科受診、更正医療の認定期間の問題などについて協議を行ってきた。また、生保個別指導に対する私病協担当理事立ち合いの復活についても継続して要望を続けているところである。

入院基本料等基準、その他施設基準の取り扱いについては、行政指導がさらに強化されてきており、また、2年に一度の診療報酬改定では、施設基準等の内容が大きく変更されることで、現場での混乱を招いている。それゆえ、今後とも両団体が一致団結して診療報酬改定への迅速な対応にあたるとともに、医療保険全般に関わる矛盾や問題に対して対応策を協議していく必要があると考えている。

D 政管健保生活習慣病予防健診指定医療機関問題

長年の交渉の結果、平成9年10月より一部参入が認められた政管健保生活習慣病予防健診機関の指定については、平成9、10、11年度と3年間で私病協会員の21機関が指定され、当初の予定を完了した。

12年度以降については、改めて協議をすることとなっており、12年度に引き続き13年度も京都社会保険事務局の担当課と話し合いを持ったが、国の財政事情が厳しく13年度予算も減少、今年度も指定機関を増やせない結果となった。

また、事業の運用上の問題として、集合健診は検診車を持っているすべての指定機関に開放すべきではないかということについて、引き続き問題提起をしていきたい。今年度より指定医療機関に対する事後調査が開始され、指定要件の確認がおこなわれるようになった。

E 特別の療養環境の提供に係わる調査（室料差額実態調査）への協力

京都社会保険事務局の同意のもと、7月1日現在における室料差額徴収に関する実態調査を会員病院（140病院）に対して実施した。

平成12年4月の診療報酬改定および同年11月に出示された通知「特定療養費に係る療養の基準の一部改正に伴う実施上の留意事項について」以降、保険医療機関における室料差額など特定療養費をはじめとする保険外費用の徴収に関して、さらなる適正化が強く求められてきている。また、特定療養費の適正な取り扱いは、各種施設基準の届出要件の一つとされていることから、今後も引き続き特定療養費制度に関する会員病院への周知徹底と適正な運営のための協力を努める必要があると考えている。

F 生保指定医療機関に対する個別指導への立ち会い

平成13年度も京都府および京都市による生保指定医療機関への個別指導に立ち会いを行った。平成9年以降、理事者(医師)の立ち会いについては京都府医師会の担当理事のみが行っており、当協会からは事務局の担当者が立ち会いをし、その調査結果については医療保険担当理事会議において随時報告している。

京都市の実施分については、今年度も特に「傷病名の整理」が強く求められている状況であった。しかし、昨年に引き続き、今年も診療行為の内容確認だけではなく、患者の稼働能力や就業の可否に対する確認や社会復帰に向けての対策、行政手続き上の問題についての意見交換も行われている。

生活保護率については、依然として京都府・京都市とも全国平均を大きく上回っている状況で、とりわけ医療扶助としての支給率が増加傾向にある。それゆえ、今後も診療内容や治療期間など細部にわたる指導が行われると予想されるので、当協会理事者の立ち合いの復帰も含め、機会あるごとに適正な行政指導が行われるよう意見を述べていく必要があると思われる。

実施日/(京都府分) 7/10 9/14 10/12 11/2 12/3 12/17 計7回

(京都市分) 7/27 8/24 8/29 9/25 10/31 11/28 12/19 1/25 1/29 3/20

計10回

G 診療報酬委員会

診療報酬そのものを扱う委員会として、理事および事務長会医事部会・医事専門委員からの代表で構成される委員会が昨年度に発足した。診療報酬改定に関する当協会の方針や、政策的な運営に寄与するためのシンクタンク的な機能を果たしていく方針。診療報酬改定に際し事務長会保険部会、医事専門委員会等と連携し、各施設の状況を把握している。開催は随時開催で、本年度の開催はなかった。

委員 清水 紘・真鍋克次郎(副会長) 田中秀和・大槻均(事務長会医事部)

岡田幸夫・高田浩之・坪田美也子・東山和富(事務長会医事部医事専門委員)

介護保険

A 介護保険への取り組み

様々な不安を抱え発足した介護保険制度も、現場での関係者の努力に支えられ、順調に定着してきている。しかしながら、介護保険制度に関わる諸問題や矛盾点など、多くの課題を抱えているのも事実であり、13年度も引き続き介護保険委員会および介護報酬委員会、ケアマネジャー準備委員会(平成14.2~ケアマネジャー委員会)において、その把握と対策の検

討を行ってきた。

その中でも13年度は、介護保険法の施行に伴って原則禁止となった身体拘束の廃止に向けて国が推進する中、京都府においても身体拘束ゼロ推進委員会が設置され、相談窓口の設置・事例集の作成・研修会の開催などの取り組みが推進されてきた。これに対し、当協会においてもより質の高い介護サービスを提供するための身体拘束廃止として、行政当局への提言提案を積極的に行い、廃止推進への取り組みを支援してきた。

また、平成13年度の京都府による各種介護サービス事業所に対する実地指導では、10月から会員の介護療養型医療施設17施設、居宅サービス事業所2施設、会員関係の介護老人保健施設7施設、介護老人福祉施設2施設に事務局が立会いを行い、適正な指導が実施されているかの確認と実態把握を行うとともに、適切な運用が図られるよう会員への資料提供や助言を行ってきた。

その他にも、清水副会長が会長を務める京都介護療養型医療施設連絡協議会などの関係団体と連携を図り、京都府・京都市が設置する委員会への委員の派遣、各種事業への助言や提言を行い、より充実した介護サービスの提供が促進されるための活動を精力的に展開してきた。

< 会員病院における介護療養型医療施設指定状況（平成14年3月1日現在） >

| | | |
|---------------|----------------|--------|
| 1 療養型病床群 | 47 病院 | 2982 床 |
| 2 診療所療養型病床群 | 3 診療所 | 17 床 |
| 3 介護力強化病棟 | 7 病院 | 893 床 |
| 4 老人性痴呆疾患療養病棟 | 3 病院 | 173 床 |
| 計 | 60 病院（3 診療所含む） | 4065 床 |

B 介護保険委員会

当委員会は、平成8年12月に介護保険法が成立した後、介護と医療の密接な関係を重視する観点から、介護保険制度が医療保険各法、医療法に基づく諸制度に及ぼす影響を的確に把握してその動向を予測するとともに、介護保険制度下における問題点を早期に解決し、介護サービスを行う会員の円滑な事業の運営に資することを目的として設置された。

委員会では行政当局（京都府・京都市）及び京都府医師会の担当者を交え、現行の介護保険制度下での諸問題を討議し、制度の適切な運用と質の高いサービス提供が図られるよう、活動を行ってきた。

1 委員会

委員長 清水 紘

委員 大槻秧司、大澤直、出射靖生、吉川聰、梶並稔正、久野成人、秋山俊二、

高橋美津子（京都博愛会病院）、加藤泰子（京都南西病院）、山本みどり（西陣病院）

開催日 5/22 6/22 7/24 9/25 10/23 11/27 12/25 1/22 2/26 3/26 4/23 計11回

2 主な活動

- a 京都市要介護認定等申請書の一本化への要望
- b 京都市介護相談員派遣モデル事業、介護サービス評価事業への協力
- c 京都府医師会による介護保険シンポジウム、京都府老人保健施設協会による京都府老人保健施設協会大会への後援
- d 京都府による介護療養型医療施設指定前現地調査、実地指導への立ち会い

C 介護報酬委員会

介護保険制度の施行からすでに2年を経過し、当初数多く見られた明細書の返戻や査定の内容数も現在は次第に減少してきており、介護報酬の請求・支払いに関しては今のところ大きな混乱は生じていない状況にある。それゆえ、今年度からは3ヶ月に一度の開催とし、必要に応じて臨時に委員会を開催するようにしている。

当委員会は、介護報酬関係の情報を収集、集積、分析し、会員に有用な情報を提供するとともに、介護報酬の請求業務に関する研修会を開催して、会員施設職員の請求事務能力の向上を図りつつ、また関係行政・団体に対して介護報酬の改善について要望していくことを運営方針に掲げて活動を行っている。

今後は、請求媒体磁気化促進の問題や介護保険料滞納者に対する保険給付の償還払い化等に伴う未収金増加への対応、介護報酬の適正な請求に関する会員への注意喚起、平成15年度介護報酬改定に向けた取り組みを中心に活動を行っていく。

1 委員会

委員長 安藤良彦（賀茂病院）

委員 浅井武司（介護老人福祉施設ヴィラ山科） 茨木孝二（亀岡病院）
大槻卓也（高雄病院） 鈴木秀哉（京都南西病院） 利根哲也（長岡京病院）
入場 繁（蘇生会総合病院） 山内 均（大原記念病院）

担当理事 清水 紘 久野成人 秋山俊二

開催日 7/13 9/27 11/21 2/27 5/15 計5回

2 主な活動

a 研修会

11月21日 於：京都府医師会館 参加者 / 214名

テーマ「介護保険に係る事務連絡・説明会」

講師 / 廣瀬秀樹（京都府保健福祉部高齢化対策課介護保険室審査係長）

高田 昭（京都市保健福祉局長寿社会部介護保険課担当課長）

藤原孝之（京都府国民健康保険団体連合会総務部介護保険対策室介護給付係長）

b その他の取り組み

- ・介護療養型医療施設サービス費の請求媒体に係るアンケート調査の実施
- ・介護保険みなしサービス事業契約書兼重要事項説明書、院内掲示参考モデルの作成
- ・京都私立病院報への介護報酬Q & Aの掲載

D ケアマネジャー委員会（ケアマネジャー準備委員会）

介護保険制度のもとでケアマネジメントを担う介護支援専門員が新たに導入されたが、実際の現場においては期待される役割に様々な問題や矛盾点が浮かび上がった。これを受けて、解決策を検討し会員の介護支援専門員の活動を支援することにより、よりよいケアの実践を目指すことを目的として当委員会が設置された。

今年度は、看護・介護記録の共有について検討を行い、その一環として介護療養型医療施設におけるケアプランや看護・介護記録など一連の記載例を作成した。また、記載例への反応や業務の実態を把握するためのアンケート調査を実施した。さらには、申請種類によって異なる京都市の要介護認定等に係る様式についても取り上げ、一本化した様式を検討・作成して問題提起を行った。その結果、平成14年4月からの様式一本化につながり大きな成果を得た。平成14年2月にはケアマネジャー委員会へと昇格し、今後も現場の介護支援専門員の業務に役立つ取り組みを行っていく。

1 委員会

委員長 岩澤京子（嵯峨野病院福祉相談室）

委員 大槻由紀子（蘇生会総合病院居宅介護支援サービスセンター）

桂 節子（京都博愛会病院）

伊達千代（第二京都回生病院居宅介護支援事業所ケアセンター回生）

中村隆子（亀岡病院居宅介護支援センター）

松岡悦子（宇治病院居宅介護支援事業所）、湯浅由美（西陣病院介護保険相談室）

奥田清子（宇治黄檗病院 平成13.9～）

担当理事 清水 紘 大澤 直

開催日 4/18 7/13 9/12 11/14 1/16 2/13 3/13 4/26 5/14 計9回

2 主な活動

- 介護療養型医療施設におけるケアプラン、サービス記録等の記載例の作成
- 記載例と介護支援専門員業務に係わるアンケート調査の実施
- 京都市要介護認定等申請書の一本化に向けた検討
- ケアマネジャーに対する報酬の問題点の集約

【地域医療部】

救急・休日・時間外診療体制の推進

A 京都府下における二次病院群輪番体制

1 京都市二次病院群輪番体制

京都市(乙訓2市1町含む)における第二次救急医療体制の充実を図るべく発足した二次病院群輪番制度も21年が経過し、京都市域において十分にその役割を果たしている。

平成13年度は67病院の協力を得、小児協力病院については9病院(及び府病協9病院)による体制で運営を行った。当番編成会議は一般・小児ともに年2回開催し、問題なく編成がおこなわれている。マンパワーの確保、経費負担、ハード面での整備など課題が多い中、協力病院のご尽力により平成13年度についても円滑な運営が行われた。今後も更なる制度の充実が望まれる。

担当理事 / 清水幸夫

1) 協力病院一覧(印は小児も担当 印は会員外病院)

A ブロック = 北区・上京区・左京区

愛寿会同仁 石野 大原記念 上京 京都下鴨 京都学際研附属 京都博愛会
京都民医連第二 小柳 相馬 富田 西陣 日本バプテスト 浜田 比叡 堀川
室町 吉岡(5月まで) 洛北 洛陽 社会保険京都

B ブロック = 右京区・西京区・向日市・長岡京市・大山崎町

太秦 内田 河端 京都桂 京都民医連中央 シミズ 新河端 第二京都回生
中尾 長岡河上 長岡京 西京都 三菱京都 洛西シミズ 関西医大洛西
済生会

C ブロック = 中京区・下京区・南区

明石 泉谷 吉祥院 京都市立 京都回生 京都九条 京都四条 京都武田
京都南 久野 西京 島原 十条(3月まで第二大羽) 武田 西大路 毛利
吉川 洛和会丸太町

D ブロック = 東山区・山科区・伏見区

愛生会山科 医仁会武田総合 大島 小澤 金井 京都大橋総合 京都専売
共和 桑原 さいわい 清水 蘇生会総合 第一岡本 なぎ辻 原田
洛和会音羽

2) 当システムを利用した入院・外来別患者搬入状況

| | 13年度 | 12年度 |
|----|-------|-------|
| 入院 | 498 | 435 |
| 外来 | 2,715 | 2,562 |
| 計 | 3,213 | 2,997 |

搬入されてきた患者が輪番制度の利用によるものか判別できない場合も多く、明らかな患者のみを集計したため、実際の搬入患者数はこれを上回ると思われる。

3) 補助金

平成13年4月～平成14年3月・・・120,611,720円

平成12年4月～平成13年3月・・・118,476,050円

運営費補助金は前年度と比べ、1当番日当たり1,050円増加した。

4) 輪番編成会議 2/25

当番編成、輪番当番病院心得・業務の確認徹底、補助金申請に関する説明などを行った。

2 南山城二次病院群輪番体制

平成7年4月より南山城医療圏(宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町)を対象とした二次病院群輪番制が発足し、7年が経過した。

13年度についても関係医療機関のご理解、ご協力により円滑な運営が行われた。また、当番日の変更による連絡体制の強化を図った。今後更に制度の充実を図る必要から、本制度を担当する診療日を増やすことを地元行政に提案しており、今後も引き続き働きかけていきたい。

担当理事 / 真鍋克次郎

1) 診療日 / 日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

2) 診療時間 / 昼間 午前8時～午後6時 夜間 午後6時～翌朝午前8時

3) 協力病院一覧(印は会員外病院)

宇治 宇治川 宇治徳洲会 第二岡本総合 都倉 ユニチカ中央 六地藏総合

京都きづ川 国立療養所南京都 ほうゆう 関西医大男山 京都八幡 八幡中央

久御山南 田辺中央

4) 当システムを利用した入院・外来別患者搬入状況

| | 13年度 | 12年度 |
|----|------|------|
| 入院 | 40 | 53 |
| 外来 | 727 | 677 |
| 計 | 767 | 730 |

京都市二次病院群輪番制度と同様に、搬入されてきた患者が輪番制度の利用によるものであることが明らかな患者のみを集計したため、実際の搬入患者数はこれを上回ると思われる。

5) 補助金

平成13年4月～平成14年3月・・・10,304,880円

平成12年4月～平成13年3月・・・10,124,180円

運営費補助金は前年度と比べ、1当番日当たり1,050円増加した。

6) 輪番編成会議 3/4

当番編成、輪番当番病院心得・業務の確認徹底、補助金申請に関する説明などを行った。

3 中丹二次病院群輪番体制(舞鶴市・綾部市・福知山市・大江町・夜久野町・三和町)

中丹地区における本年度の二次病院群輪番制度も順調に運営された。当該地区は対象範囲が広域であり、それによって生じる問題も種々あるが、当協会としても北部の会員と共に、今後も引き続き制度の整備に協力していく必要があると思われる。

1) 診療日/日曜日、祝日、年末年始 2) 診療時間/0:00～24:00

3) 協力病院 印は会員病院

舞鶴市/国立舞鶴病院、舞鶴市民病院、舞鶴赤十字病院、舞鶴共済病院

綾部市/綾部市立病院

福知山市/京都ルネス病院 福知山市民病院

B 京都府救急医療情報システム

救急医療機関の情報を正確かつリアルタイムに伝えるための「京都府救急医療情報システム」が、14年4月からインターネットを利用した新たなシステムで運用されることになった。システムの変更に際しては、当協会からの委員も加わった京都府の救急医療情報システム運営懇談会で議論がなされた。

新たなシステムでは、取扱える診療情報の内容の拡大と精度向上が図られ、柔軟かつ容易に情報を利用できるようになった。取扱い情報としては、18科目ごとの診療・手術可否、男女別空床数のほか、疾患別・高次機能別の対応可否が用意されている。また、府県境での救急搬送などでは、近隣府県と救急医療情報の相互提供がおこなわれ、よりの確に対応できるようになったほか、広域災害発生の際に、医療機関の被災状況(診療可否やライフラインの設備など)、被害者要請や医療スタッフの要請・提供などの情報を収集・提供し、被災地域の医療活動を支援する機能も併せ持つ。

1 京都府救急医療情報システム運営懇談会への当協会からの派遣委員

真鍋克次郎(担当理事)

2 京都府救急医療情報システム運営懇談会 2/25

- 3 京都府救急医療情報システム更新に係る説明会
京都府医師会館 10/29 舞鶴勤労者福祉会館 10/30
- 4 京都府救急医療情報システム操作説明会
京都府医師会館 3/14 福知山市民会館 3/15

C 京都府周産期医療情報システム

京都府の周産期医療情報ネットワーク事業の核となり京都府全域からの情報を24時間体制で一元管理し、母体・新生児の生命を守る総合周産期母子医療センターが、平成9年より第一赤病院で稼働している。それにともない、府域を北部と南部のブロックに分け、高度医療を提供するサブセンター(2病院)、救急搬送を受け入れる2次病院(16病院)がそれぞれ指定されており、全国平均を大きく下回っていた京都府での救命率は改善されてきた。

周産期医療情報提供書による記載がおこなわれるようになり、統計データが実際に応じたかたちに整理されている。

当協会では、体制整備に必要な調査および情報システムなど周産期医療体制の確立に必要な事項について協議する京都府周産期医療協議会に委員を派遣し、協会の意向を反映した。

- 1 京都府周産期医療協議会への当協会からの派遣委員
真鍋克次郎(担当副会長)
- 2 京都府周産期医療協議会 3/26

救急医療をめぐる問題への取り組み

A 救急医療委員会

当委員会は救急担当理事と会員病院の代表で構成され、病院の救急医療に関わる諸問題について検討した。13年度は特に、次年度から新システムが導入されることになった京都府救急医療情報システムについて、新規に取り扱う情報項目の整理、システム構築に際しての提案 - などをおこなった。クモ膜下出血に対する救急搬送について新システムに移行するまでの間、多少イレギュラーな搬送方法が取り入れられることになったが、4月以降は同システムで対応できるようになった。

府医の救急委員会では、京都市における小児科夜間救急医療体制の整備に向けてた構想が浮上し、当協会に意見を求められた。小児の時間外救急のほとんどを限られた医療機関で対応していることによる限界が指摘されたものであるが、当協会としては2次救急当番病院を含めたできるだけ多くの小児担当医療機関が担うようにすることで、問題の解消につなげたいとする主張をおこなった。(資料 -)

京都府の北部地域で、精神科救急医療システムの運用が開始された。府南部においても14

年度から運用開始に向けて準備が進められているところであり、当委員会で社会全体のシステムとして機能していくよう、検討をおこなっている。

1 委員会

委員長 真鍋克次郎

委員 吉川順介、中野博美、清水幸夫（以上、理事）、石丸庸介（田辺中央病院）

大橋一郎（京都大橋総合病院）、武田隆久（武田病院）、山本 潔（洛陽病院）

開催日 5/22 6/26 9/25 10/23 11/27 1/22 4/30 計7回

2 救急医療に関する会員アンケート調査集計 3月

B 救急搬入事故対策委員会

毎月第3金曜日を定例日として、11回開催した。病院経営が厳しさを増し、また救急診療体制を維持し続けるには多大なコストがかかる状況のなかで、交通事故医療を中心とする自由診療分を堅実に回収していくことが、自賠責保険取り扱い担当者の課題といえる。

当委員会では、救急搬入および自動車保険への治療費請求に付随する諸問題について、会員病院の結束を図りつつ対策を検討した。また会員から出された苦情や意見に対応した。自賠責保険関連では、重度後遺症障害者への介護料支給事業がスタートしたが、傷害時の限度額の引き上げや休業損害・慰謝料と治療費に対する補償を別枠にするといった問題は残されたままとなっている。損害保険業界の再編によって、先行きが不透明なところがあるが、引き続き委員会としても注視していきたい。

年に1度、自賠責保険担当者を対象に開催している講習会では、算定基準に日医ガイドラインを導入されている大阪府にある医療機関から自賠責担当者を講師に迎え、講演会を開催した。新基準の内容を理解する上で、大変参考になった。また、会員病院の自賠責保険取り扱い担当者による情報交換会を開催し、会員同士の交流とともに他施設からの意見を聞くことができた。

1 委員会

委員長 齊藤嘉甫（田辺中央病院）

副委員長 村崎真生（蘇生会総合病院）、立仙俊彦（第二京都回生病院）

委員 大内隆生（小柳病院）、片山幸裕（京都南病院）

風見英宏（八幡中央病院～平成13.7）、岸本啓介（京都民医連第二中央病院）

高野 進（シミズ病院～平成13.9）、狭間由浩（園部丹医会病院）

廣瀬良太（洛和会音羽病院）、山崎百代造（武田病院～平成13.7）

担当理事 出射靖生

2 開催日 5/24 6/22 7/19 9/21 10/19 11/16 12/11 1/18 2/15 3/15 4/19 計11回

3 主な活動と検討議題

- a 自賠責保険担当者講習会の開催
6月13日 京都府医師会館 参加62名
テーマ「当院の交通事故医療費請求についての考え方」
講師 / 伊賀勝彦（大阪・大野記念病院サービス事業部長）
- b 損保業界の吸収合併の状況
- c 会員病院・損保会社担当者名簿の作成
- d 自賠責保険請求マニュアルの改定について
- e 自賠責担当者情報交換会の開催について
12月11日 京都府医師会館 参加62名
- f 外国人に対する治療費の未収対策について
- g 次年度自賠責保険担当者講習会の開催に向け検討
- h 自賠責審議会等の状況について
- i 業務上の問題点（情報交換）

在宅医療等への取り組み

A ホームヘルパー養成事業

急激な高齢化と核家族化の進展、女性の社会進出等により、福祉サービスを必要とする人々が増えており、住み慣れた地域で心豊かに生活が送れるような福祉社会をつくっていくことが重要な課題となっている。このためには、地域福祉を支える福祉人材の養成確保を図る必要がある。

ホームヘルパー養成事業は高齢者の増大かつ多様化するニーズに対応した適切なホームヘルプサービスを提供するため、必要な知識、技能を有するホームヘルパーの養成を図る目的で行われている。また、平成12年4月の介護保険制度の施行にともない、都道府県知事による指定に改正された。今年度も京都府知事の指定を受けて実施した。

本年で6年目を迎えたこの事業も、本年度は1回開催し、13期24名に京都府指定のホームヘルパー養成研修2級課程の修了証が授与された。

13期生より厚生労働省の教育訓練給付金制度の指定講座となり、少しでも受講しやすい環境を整えることができた。

1 ホームヘルパー養成事業運営委員会

委員 / 大槻秧司（委員長＝担当副会長） 大澤 直（担当理事） 中野種樹（担当副会長）
板坂 勉（担当理事） 中谷泰幸（事務長会常任委員）
加藤きみ子（婦長部会総務委員） 吉田多美（私病協事務局長）

2 ホームヘルパー第13期募集内容

募集定員 / 40名 料金 / 83,000円

学習期間 / 約5ヶ月 開催日 / 平成13年10月6日

通学学習 / 実技スクーリング全8日間(土曜日)

10/6 10/13 10/20 10/27 11/24 12/1 12/8 2/23

時間 / 9:00 ~ 17:30

場所 / 京都保健衛生専門学校・京都中央看護専門学校

講師 / 京都保健衛生専門学校教員・京都中央看護専門学校教員他

自宅学習 / 全6回 実習 / 平成13年12月~14年2月(4日実施)

実習施設 / 白寿、ひまわりの里、ぬくもりの里、アールそせい、ヴィラ山科、
西七条訪問介護ナースステーション、ホームヘルパーステーションおうばく、
訪問介護ステーションアゼリア、ヘルパーステーションみなみ

医療安全対策への取り組み

昨年度、多発する医療事故防止対策を研究する会を学術研修部のなかに設置した。今年度は、一歩進めて医療安全という観点から活動をしていくことになり、会の名称を医療事故防止研究会から医療安全対策委員会に改称した。

本年度の主な事業として、医療安全対策に向けた会員啓発活動と会員病院に役立ててもらえる「医療安全対策マニュアル」の作成に取り組んだ。

国を始め、各医療機関、医療系の各職能団体などそれぞれの立場で事故の原因究明と防止に向けたマニュアルづくりがなされているが、当委員会としてもそれらを参考にしながら、比較的規模の小さな病院の多い会員の実情に則した医療安全対策マニュアルの作成を心がけた。

京都府の助成も受け、関係各委員会、医師会をはじめ諸先生の支援も得て、年度末の3月に完成することが出来、会員を始め京都府下の全病院に送付した。平成14年4月から診療報酬に「医療安全対策未実施減算」の点数が導入され、本マニュアルの活用が期待される。

1 委員会

委員長 大槻秧司(担当副会長)

副委員長 真鍋克次郎(担当副会長)

委員 清水正啓(医師代表)、中谷泰幸(事務長会代表)、高岡みな子(婦長部会代表)、
森下菊雄(薬局長会代表)、井上博志(放射線技師会代表)、
国永清光(臨床検査部会代表)、中森京美(栄養士部会代表)

2 開催日 5/30 6/27 7/31 8/28 9/26 10/31 11/13 11/28 12/11 1/23 2/13 3/26

計12回

3 主な活動

a 医療事故防止講演会の開催

10月10日 於：京都市生涯学習総合センター アスニーホール

テーマ/「医療安全」～当病院における取り組みと実践からの考察～

講師/大井利夫(上都賀総合病院 名誉院長)

参加者/291名

2月21日 於：京都府医師会館

テーマ/「輸血療法の安全性を高めるために」～医療安全対策関連フォーラム～

参加者/193名

b 「医療安全対策マニュアル」発行 1,000部

感染症対策への取り組み

平成10年度冬季のインフルエンザの大流行、結核の集団感染問題、B・C型肝炎の院内感染、O-157をはじめとする各種の食中毒の多発、HIV感染問題、さらには11年4月の感染症新法の施行など、感染症問題を取り巻く諸問題への対応と院内感染防止に向けての諸対策を講じる目的で、同年6月、私病協「感染症対策委員会」が設置された。委員会は、理事会・看護部長会・会員内の専門医師により構成され、毎月1回定例開催している。定例の委員会では、月間の感染症情報の整理と会員への情報提供の方法などについて検討し、「私病報」に掲載した。また、各種調査や研修会の企画等も行っており、特に13年度は、病院職員に対する感染症対策の問題を中心に検討し、8月に「職員に対する感染症対策を主としたアンケート調査」を実施。調査結果を「私病報」に掲載した。11月には協会の各職能部会の協力を得て、全ての職種を対象に大規模な研修会を開催した。

平成14年3月には、褥瘡対策未実施減算への対応として、いち早く「褥瘡対策マニュアル(参考資料)」を作成した。これはメディアファクス等に紹介され、全国の医療関係機関から、資料提供の依頼が多数集まり、褥瘡対策の取り組みに大きく貢献した。

1 委員会

委員長 清水正啓(理事)

委員 中野博美、戸津崎茂雄、大野研而、小森直之、河端一也(以上、理事)

池田宣昭(医仁会武田総合病院)

大滝久枝、宅和静枝(以上、看護部長会派遣)

2 開催日 6/7 7/3 9/5 10/3 11/7 2/6 3/6 4/3 計8回

3 研修会

テーマ / 「病院感染対策～CDCの科学的な対策～」

開催日 / 11月20日

講師 / 矢野邦夫(静岡県・県西部浜松医療センター感染症科科长)

対象 / 全職種 参加者 / 89施設294名

4 職員に対する感染症対策を主としたアンケート調査の実施

実施 / 9月 集計結果 / 私病報平成14年5月号に掲載

調査対象 / 会員167機関(特別会員含む)

回答数 / 67施設 回収率 / 40%

5 「褥瘡対策マニュアル(参考資料)」

作成 / 14年3月

資料提供部数 / 351施設(4月現在)

情報開示委員会

平成10年に厚生省がカルテ等の診療情報提供に関し、開示を法制化する動きが表面化した。翌年に日医が「診療情報の提供に関する指針」を出すことにより法制化を阻止した。その後、国立大学医学部附属病院他などで開示に向けての指針が数多く出されてきたが、当協会会員病院においてカルテ開示などの情報提供の現状把握及び今後開示に向けて開示にたえうるカルテの研究等を目的に8月「情報開示委員会」が設置された。委員会は理事会、事務長会、看護部長会と会員内の医師により構成され、2ヶ月に1回定例開催している。

今年度は会員病院におけるカルテ開示などの情報提供の実態を把握するための調査を実施し、とりまとめに解説をつけ協力病院に報告、また会員には事例をつけたものを私病報に掲載し報告をおこなった。その他カルテの書き方や平成12年度に当協会が作成した「診療情報提供に関する指針の見直しについても検討を行った。

1 委員会

委員長 大槻秧司(担当副会長)

委員 戸津崎茂雄、松井道宣(担当理事)、栗岡成人(城北病院)、山里有男(武田病院)、
吉田 章(三菱京都病院)、大西三津夫(事務長会)、澤井美智子(看護部長会)

2 開催日 8/10 10/26 12/21 3/1 4/26 計5回

3 カルテ開示の実態調査の実施

実施日 / 11月

【学術研修部】

京都病院学会

A 第36回京都病院学会

今回は「医療事故防止対策」をテーマに取り上げた特別講演を開催し、タイムリーかつ非常に分かりやすい内容で、好評であった。また、一般演題では各部門において活発な質疑応答が見られ、これは日常の医療活動を通じた第一線の臨床現場での研究成果を発表しあう貴重な場として、本学会が大きな評価を得ていることによると思われる。

6月10日(日)9:00～17:00 於：京都府医師会館

参加者総数 1,247名 演題 計207題

特別講演「患者が医療に望むこと」

講師 辻本好子(ささえあい医療人権センターCOML代表)

1 各種会議開催日

理事会 12/5 1/9 2/6 3/6 4/3 5/8 6/5 7/3

実行委員会 2/6 3/6 4/3 5/8 6/5

プログラム編成委員会 3/22

展示業者説明会 5/24

反省会 7/3

2 学会役員

学会長 齋藤信雄(NTT西日本京都病院)

副学会長 岡 隆宏(京都第一赤十字病院)、清水 紘

理事 松原義人(京都桂病院)、倉澤卓也(国立療養所南京都病院)

澤田 淳(京都第二赤十字病院)、真鍋克次郎、吉川 聰、小森直之、梶並稔正、
久野成人

監事 村田真司(三菱京都病院)、大澤 直

2 実行委員

実行委員長 松原義人

副実行委員長 真鍋克次郎

実行委員 事務部門 東 一行(NTT西日本京都病院)、辻井基晴(京都南西病院)

看護部門 佐々木美恵子、三嶋明子(京都桂病院)、西岡和子、澤井美智子

薬剤部門 大西敏之(武田病院)

臨床検査部門 林彰彦(京都市立病院)

臨床工学部門 只重喜(桃仁会病院)

栄養管理部門 大田哲司(京都市立病院)
放射線部門 川田 明(第二岡本総合病院)
リハビリテーション部門 並河 茂(京都市立病院)
上垣幸衛(京都市身障者リハビリテーションセンター附属病院)
学校教務部門 齋藤祥乃(京都保健衛生専門学校看護学科)
後藤直樹(京都保健衛生専門学校検査学科)
岡田由岐子(京都中央看護専門学校)

B 第37回京都病院学会の開催にむけて

平成14年6月9日(日)の開催に向け、昨年12月より理事会を、本年2月より実行委員会を毎月開催して準備を進めているところである。

今学会には、一般・要望演題合わせて237題の応募があり、プログラム編成委員会において全演題の採用が確定した。また、今学会も一般演題の発表とは別に共通テーマとして「患者にやさしい医療部門」を設け、これに関連したテーマで各部門からの発表と全体討論を行うことにしている。特別講演では、元NHKアナウンサーでエッセイストの山川静夫氏をお招きし、「明るく楽しく元気の出る病院」をテーマにご講演いただく。

1 学会役員

学会長 清水 紘
副学会長 真鍋克次郎、岡 隆宏
理事 吉川順介(実行委員長)、吉川 聡、小森直之、久野成人、
松原義人(副実行委員長)、倉澤卓也、澤田 淳、
中島徳郎(済生会京都府病院)
監事 大澤 直、齋藤信雄

2 実行委員

事務部門 辻井基晴、佐藤 修(京都桂病院)
看護部門 西岡和子、澤井美智子、千々石八重子(京都第一赤十字病院)
三嶋明子
薬剤部門 森下菊雄
臨床検査部門 林 彰彦
臨床工学部門 泉田洋志(京都保健衛生専門学校)
栄養管理部門 小田嶋真実(京都府立洛東病院)
放射線部門 川田 明
リハビリテーション部門 並河 茂、上垣幸衛

学校教務 高橋みどり（京都保健衛生専門学校看護学科）
後藤直樹（京都保健衛生専門学校臨床検査学科）
池田美晶（京都中央看護専門学校）

教育・研修

A 教育訓練初級コース

会員病院の新入職員・初級職員を対象とした教育訓練初級コース（接遇訓練）は毎年春に開催している。病院職員としての基本的知識の心得を修得し、一日も早く医療機関における組織人としての自覚を持つことを目的としたこの研修会は、現在では会員病院に定着し期待も大きい。

1 京都市内開催

5月9、16日 於：京都府医師会館

参加者 / < 5月9日 > 33施設104名、< 5月16日 > 33施設113名

講師 / 立川義博（人材育成研究所所長）

2 北部地区開催

6月23日 於：中丹勤労者福祉会館

参加者 / 13施設76名

講師 / 立川義博（人材育成研究所所長）

北部での開催については、福知山市と舞鶴市で毎年交互に実施している。今回は福知山での開催となり、福知山医師会との共催で行った。今回は福知山医師会看護高等専修学校の学生は急遽行事が重なり不参加となった。

B 中堅幹部職員研修

事務長会（労務部）が中心となって企画運営され、病院内各職種の中堅幹部職員を対象に2年に1度実施している。今回も事務長会から選任された内部講師陣および外部講師により1泊2日の集中研修の形で行われた。

研修内容およびカリキュラムについては、講義内容をまとめ好評の討議の時間に重点をおき、参加者全員積極的に意見を述べ、活気ある討論が繰り広げられた。

将来の病院経営において重要な役割を担う中堅幹部職員の育成の場としての本研修会への期待はますます大きくなるものと思われる。

開催日 / 2月14日・15日

会場 / レイクさがわ（滋賀県守山市）

参加 / 26施設37名

研修内容 / コミュニケーションゲーム 日本の医療と社会保障の現状 リーダーシップと期待される中堅幹部像 病院の経営管理 グループワーク(テーマ/これからの賃金制度と雇用形態)

講師・スタッフ / 石原良次、太田 互、奥田 守、滋岡嘉弘、中江美隆、小山忠典、
中谷泰幸、四井猛士、増田道彦(内部講師/宇治徳洲会病院院長)
飯嶋百治(外部講師/社団法人大阪府経営合理化協会中小企業診断士)

C 看護卒後教育

看護の卒後教育に関する企画・運営は、卒後教育検討委員会でおこなっている。本年度は、「看護中間管理者研修 (主任コース)」を4月から翌年2月までの計11回、「看護中間管者研修 (婦長コース)」を9月から11月までの間で計6回開催した。また、「リーダーシップ研修」を卒後3年目の看護職員対象コースと参加対象限定なしコースに分けて、それぞれ2日間にわたり開催した。その他、「看護補助者研修」を4月に開催し、大きな成果をあげた。

1 卒後教育検討委員会

委員長 澤井美智子

委員 高橋美津子、西岡和子、新井靖子、石崎友里子、小川百合子、佐々木美恵子、
原 ムツ子、村瀬浩子、森洋子、高尾幸栄、庭山英介、山名美恵子、塩見千恵子、
池西静江(～平成13.8) 石束佳子(平成13.9～)

2 中間管理者研修 (主任コース)

参加者 / 69名 修了者57名

会場 / 京都中央看護専門学校(第9回のみ京都府医師会館)

4/26 「そして私はここにいる～生物としての人～」

講師 / 西澤いづみ(京都中央看護専門学校非常勤講師)

5/29 「看護研究」

講師 / 西田 晃(元藍野看護短期大学教授)

6/26 「青年心理」

講師 / 秋葉英則(大阪教育大学副学長)

7/31 「交流分析」

講師 / 水野正憲(岡山大学教授)

8/28 「P.O.S(問題解決技法)」

講師 / 中木高夫(名古屋大学医学部保健学科教授)

9/18 「看護診断」

講師 / 中木高夫(名古屋大学医学部保健学科教授)

10/31 「看護記録の実際」

講師 / 上野範子(京都府立医科大学医療技術短期大学部助教授)

11/22 「看護管理」

講師 / 高嶋妙子 (聖隷浜松病院・顧問)

12/4 「人格があって人間」

講師 / 栢木寛照 (比叡山麓三宝荘住職)

1/22 「グループワーク」

講師 / 藤田敬一郎 (地域活動研究所代表)

2/19 「グループワーク」

講師 / 藤田敬一郎 (地域活動研究所代表)

3 中間管理者研修 (婦長コース)

参加者 / 50 名 修了者 47 名 会場 / 京都府医師会館

1) 組織運営と教育

9/13 「病院組織と看護組織および職場の活性化」

講師 / 林 三夫 (ハヤシ経営研究所)

9/27 「現場での部下の育成」

講師 / 高嶋妙子 (聖隷浜松病院・顧問)

10/16 「院内教育と婦長のかかわり」

講師 / 松山澄子 (市立福知山市民病院看護部長)

10/25 「各種会議・カンファレンスの持ち方、助言のしかた」

講師 / 杉野元子 (看護組織開発研究所代表)

11/8 「今後の医療情勢と医療運営」

講師 / 天野 圓 (特定医療法人大道会常務理事)

11/8 「婦長のリーダーシップ」(最後の総まとめのいみで)

講師 / 杉野元子 (看護組織開発研究所代表)

11/27 「病棟管理等の評価」

講師 / 前田マスヨ (元東海大学医学部附属病院看護部長)

4 リーダーシップ研修

a 卒後 3 年目限定コース

6 月 13 日 6 月 22 日 於 : 京都府医師会館

講師 / 黒木保博 (同志社大学文学部社会学科教授) 参加者 / 60 名

b 参加対象限定なし

7 月 3 日 7 月 10 日 於 : 京都府医師会館

講師 / 立川義博 (人材育成研究所所長)

参加者 / 80 名

5 看護補助者研修

4月10日 於：京都府医師会館 参加者 / 86名

講師 / 立川義博 (人材育成研究所所長)

D 保健医療管理者養成講座

病院管理の重責を担う管理職の経営・管理の技法の向上が強く求められるとともに、量的な充実も必要となってきた。しかし、わが国では医療機関管理者の養成機関としては、近年、大学において講座開設が始まってきてはいるものの、働きながら学ぶ場は少ないのが実情である。

当協会では、会員病院の職員を対象とした経営・管理に必要な基礎知識の修得と実践に役立つ応用能力を養う教育を継続実施することを目的に講座を開講して11年を迎え、本年度修了生22名(11期生)を加えて総勢183名が巣立ったことになる。

10期生より厚生労働省の教育訓練給付金制度の指定講座となることが出来、少しでも受講しやすい環境を整えることができた。これに伴い保健医療管理士の認定は、新たに認定基準を設け、基準に則り、11月に開催された私病協創立記念式典において10期生20名全員に認定証が授与された。保健医療管理士の称号を持つ修講生は、会員施設においてトップ管理者として、また、中堅管理者としてその役割を果たしている。

1 第11期生入講式 4月21日 於：京都アスニー 入講生23名

入講記念特別講座 4月21日 於：京都アスニー

「医療と法律」 講師：川本哲郎(京都学園大学教授)

2 保健医療管理士認定式 平成13年11月30日 於：京都ホテル

第10期生全員に保健医療管理士の認定証が授与された。

3 認定委員会 平成14年3月6日 於：医師会館

第11期受講生22名の修了が認定された。(1名途中退学)

4 終講式 平成14年3月30日 於：京都全日空ホテル

5 運営委員

委員長 / 吉川順介(担当副会長)

委員 / 大槻秧司、中野種樹(担当副会長)、近藤泰正(担当理事)、奥田 守、

四井猛士(事務長会)、高橋美津子(看護部長会)、大槻均(一期生)、

茨木孝二(保健医療管理士会会長)、松崎祥三(学校事務局長)、

吉田多美(事務局長)

6 運営委員会

開催日 10/2

E 在職者向けIT訓練講座

ITに係る業務上必要な能力の習得を目的として、雇用・能力開発機構京都センターの委託を受け、昨年2月より会員の全職種の従業者を対象として開催を行ってきた。

今年度については初級・中級・上級講座を設定し、各レベルに応じた内容で合わせて22回開催し、延べ647名が受講した。各講座とも実際にパソコンに触れながら、パソコンの操作・ワープロ文書の作成・表計算ソフトの活用・インターネットの利用・電子メールの送受信などを行った。今後、それぞれの職場でのITの活用に必要な技術に触れることができた講習会となった。

1 初級講座（1講座 / 1日3時間の計6日間で修了）

会場 / 京都保健衛生専門学校 開催 / 8講座（1講座定員40名）受講者 / 計319名

会場 / 京都中央看護専門学校 開催 / 6講座（1講座定員20名）受講者 / 計108名

2 中級講座（1講座 / 1日3時間の計6日間で修了）

会場 / 京都保健衛生専門学校 開催 / 3講座（1講座定員40名）受講者 / 計120名

会場 / 京都中央看護専門学校 開催 / 4講座（1講座定員20名）受講者 / 計80名

3 上級講座（1日3時間の計6日間で修了）

会場 / 京都中央看護専門学校 開催 / 1講座（定員20名）受講者 / 20名

講師 / 阪部智子（有限会社アクションケイ取締役）

西田俊明（パソナコンじゅく西向日駅前教室代表）

調査対象 / 私立病院協会会員168機関（特別会員含む）

回答数 / 68施設 回収率 / 40.5%

【経営部】

A 民間病院に対する補助制度への対応

平成5年度からスタートした民間病院の施設整備および運営改善両面からの支援事業も9年目を迎えたが、補助制度も医療の適正化対策の一環としての位置付けが濃厚となってきており、病床を削減してアメニティーを高めること、また、政策医療を実施することが補助の対象となり、誘導策がとられている。本年度も引き続き国の景気刺激対策に伴う第2次補正があり、療養型病床への転換およびIT化を中心に補助が実施されたが、国における予算の決定から具体的申請手続きまでの時間が短いいため、相変わらず病院にとっては非常に使いづらい制度である。しかし、私病協としては会員の要望を最大限かなえるために、所轄の府医療・国保課と十分連携をとりながら情報提供や事態の收拾を行った。

| | | |
|-----------------------|------|-----------|
| 1 医療施設近代化施設整備事業： | 3病院 | 133,057千円 |
| 2 病院内情報システム整備促進事業： | 3病院 | 356,550千円 |
| 3 地域医療充実のための遠隔医療補助事業： | 2病院 | 8,672千円 |
| 4 周産期医療医師派遣促進補助金： | 3病院 | 600千円 |
| 5 公的病院等特殊診療部門運営費補助 | | |
| 1) 救急医療施設： | 18病院 | 120,998千円 |
| 2) 在宅医療施設： | 5病院 | 30,380千円 |
| 6 院内保育事業運営費補助： | 26病院 | 102,167千円 |
| 7 院内保育奨励金： | 3病院 | 750千円 |
| 8 救急医療機関等助成事業： | 91病院 | 34,006千円 |

B 入院環境整備委員会

入院環境整備委員会では、従来からの寝具や病衣の安定供給や品質改良への取り組みのみに止まらず、患者の療養環境の整備に関する全ての事項を対象に活動を展開している。

本年度は特に目立った活動はなかったが、京都府病院協同組合との連携のもと、規制緩和の情勢下で進行する寝具業界の変動に着目し、引き続き会員病院が厚労省の示す基準に則った適正な寝具類を使用するよう呼びかけている。なお、病院協同組合の指定業者とは定期的に懇談をもち、各種の情報交換を行うとともに寝具類の衛生管理の徹底および安値安定供給体制の強化について要請した。また、委員会では引き続き、病衣の改良と情勢に応じた対応策の研究を行うことにしており、さらに今後は院内脱臭対策、褥瘡対策、マットレスパットのリース契約などの検討を行っていきたいと考えている。また病院協同組合からの要請を受け、指定業者の洗濯工場の視察を行い、各社の遵法体制を確認した。

1 入院環境整備委員会

委員長 / 吉川順介 (担当副会長)

委員 / 太田 互 (担当理事)、石原良次、岸本啓介、滋岡嘉弘 (平成13.12～)

永井佑二、八木利之 (事務長会)、中川美代子・木下朋子 (看護部長会)

開催日 / 10/29 (感染性廃棄物処理問題検討委員会と合同)

2 京都府病院協同組合指定寝具業者視察

神医協興産株式会社 3/25 ワタキューセイモア株式会社 3/28

小山株式会社 3/27 株式会社井戸太蒲団店 3/27

C 感染性廃棄物処理問題委員会

入院環境整備委員会の検討項目のひとつであった感染性廃棄物処理に伴う諸問題をより具体的に検討するため、平成11年度に「感染性廃棄物処理問題委員会」が設置された。

委員会では今後も引き続き病院における廃棄物の処理状況の実態調査を行い、会員へは適正な処理の重要性を呼びかけるとともに、それに伴う多額の処理費用への財政措置を含めた諸施策の構築について地元行政をはじめ関係各方面に訴えていくことを検討している。廃棄物の排出処理業者責任の強化を盛り込んだ改正廃棄物処理法が施行されたが、廃棄物の最終処理場を確認する目的から、今年度は当委員会および入院環境整備委員会と合同で、委員による尼崎沖埋立処理場の見学会を実施した。

1 感染性廃棄物処理問題委員会

委員長 / 中野種樹 (担当副会長)

委員 / 秋山俊二、太田 互 (担当理事)、永井佑二、中江陽一 (事務長会)、須川裕子、福田さよこ (看護部長会)

開催日 10/29 (入院環境整備委員会と合同)

2 尼崎沖埋立処理場 (廃棄物最終処理場) 見学会の開催 3/12

D 薬事委員会

医薬品の購入価格に関する活動を行っており、本年度も昨年度と同様に購入価格調査を行った。今回の価格調査品目は、平成13年3月期決算国内売上高上位100品目と新医薬品を加えた内服・注射・外用の合計129品目と後発品について行い、後日その全データをコンピュータ処理して、回答施設へ資料として返した。今回も前回と同様に郵送による回答方式(無記名)で行った。また同時に医薬品購入等に係わる実態調査も行い、集計を回答施設へ資料として返すとともに、委員会で内容を検討した。拡大委員会を開催し、購入価格調査と医薬品購入等に係わる実態調査の結果報告を行う予定である。

11月に塩野義製薬株式会社摂津工場へ施設見学会を行った。

1 委員会

委員長 吉川順介（副会長＝担当）

副委員長 加藤恵三、石田 誠（第二岡本総合病院）

委員 吉岡久雄（～平成14.3） 桑田和典（堀川病院） 佐藤ひろ子（京都博愛会病院）
野田保二（上京病院） 重田 薫（京都回生病院） 友澤明德（京都九条病院）
竹内展也（清水病院～平成13.7） 松本ゆう子（清水病院平成13.8～）

開催日 5/21 6/18 7/16 9/17 10/15 12/17 1/21 3/18 4/15 計9回

2 主な活動

a 医薬品購入価格調査

アンケート実施8月 集計表送付11月 回答施設51施設

b 医薬品購入に係わる実態調査

アンケート実施8月 集計表送付11月 回答施設50施設

c 施設見学会

11月19日 塩野義製薬株式会社摂津工場（大阪府摂津市）

E 購買担当者会議

京都府病院協同組合との共同事業として開催している本会議も19年が経過した。病院の経営環境は悪化の一途を辿っており、各病院とも経費節減策の一環として購買業務の見直しを行っている。

そのような状況の中で、本会議に対する購買担当者の関心も確実に強まっており、回を追うごとに盛況になってきている。

本年度は1回の開催で、中材業務についての勉強会とレントゲンフィルム等の価格の情報交換を行った。その成果は共同購入による安値安定供給システムの推進に大いに役立つとともに、多くの消耗品について各メーカーが協同組合に触発される形で値下げを実施するなど波及効果をも生み出している。

11/29 テーマ/「第二岡本総合病院における中材業務の合理化及び品質管理の諸問題
について」

講師/田中義一氏（第二岡本総合病院看護士長）

価格情報交換（レントゲンフィルム・衛生材料）

参加者/36施設38名

F 融資斡旋

1 年末融資斡旋

説明会を11月5日に、申し込み受付を11月22日に行った。本年度も京都府救急告示病

院等運転資金融資制度の対象病院の拡大および融資額(1法人・1個人病院)の増額を要望したが、今年度も昨年と同額であった。また、利率についても引き下げとならず、昨年と同率であった。その結果、本年度の融資総枠17億円を全て斡旋できなかった。会員からは、さらに対象病院の拡大と融資額の増額を求める声が多くあがっている。

京都府救急告示病院等運転資金融資制度の実施状況は次のとおりである。

病院数 / 13 総額 / 5 億 9,100 万円

限度額 / 5,000 万円 (1 法人で複数病院を有する場合は 1 億円)

期間 / 3 年以内 (据置 6 か月以内)

利率 / 2.5 %

2 中信病院職員ローン

発足15年目の会員病院の職員向ローンは、京都中央信用金庫の全店で受付けており、保証人の要らないものである。

制度の概要と利用状況は次の通りである。

| | | |
|------------------------|-------------------|-----------------|
| 融資限度額 / 病院職員カードローン | | 30 万円 |
| 病院職員ローン | | 500 万円 |
| 利息 (保証料込み) / カードローン | | 12.1% |
| | ローン | 8.65% |
| 返済期限 / カードローン | 3 年 (継続の場合再手続要) | |
| | ローン 最長 | 5 年 |
| 3 月 31 日現在の利用 / カードローン | 96 件 | 25,221,000 円 |
| | ローン | 2 件 2,264,323 円 |

3 京信メディックローン

病院の幹部職員を対象に、京都信用金庫と締結して20年目になる。しかし、対象者が幹部職員と限られており、保証人が要ることもあり、利用は今年度もなかった。

制度の概要と本年度の利用状況である。

融資限度額 / 300 万円

利息 / 1 年以内 長期プライムレートイコール

3 年以内 長期プライムレートイコール + 0.2 %

5 年以内 長期プライムレートイコール + 0.4 %

利用件数 / 0 件

【厚生部】

A 第37回病院対抗野球大会の開催

京都府知事杯争奪第37回病院対抗野球大会は、4月29日より横大路グラウンドにおいて開催され、4日間の熱戦が繰り広げられた。

毎試合熱戦が続く中、昨年に続いてシードチームの桃仁会病院・京都民医連中央病院・大原記念病院・洛和会音羽病院が準決勝まで勝ち進み、桃仁会病院と京都民医連中央病院がともに好試合を制した。決勝戦は昨年と同じく因縁の対戦となり、結果、桃仁会病院が2年連続3度目の栄冠を手にした。

桃仁会病院は連覇という重圧の中、昨年と同様チャレンジャー精神を忘れることなく堅実な守備とチームワークに徹した末の優勝であった。

開催日 / 4/29 4/30 5/13 6/17 会場 / 京都市横大路グラウンド 参加 / 40チーム
優勝 / 桃仁会病院 準優勝 / 京都民医連中央病院 3位 / 大原記念病院、洛和会音羽病院
協賛 / 株式会社 公益社

実行委員会

開催日 2/23(平成13年) 於: 京都府医師会館

実行委員長 川田 明(第二岡本総合病院)

副実行委員長 鳥本宏一(京都九条病院)

実行委員 今井 優(医仁会武田総合病院) 岸本勝也(長岡病院)

八木勝之(蘇生会総合病院) 八木利之(洛和会音羽病院)

担当理事 梶並稔正 久野成人

組合せ抽選会

開催日 3/26(平成13年) 於: 京都府医師会館

B 第24回病院対抗女子バレーボール大会

24回を数えた大会も順調に試合がおこなわれ、予定通り3日間で全日程を終了した。大会運営には実行委員会があたり、実行委員、審判員、協賛企業など関係者各位の協力をいただいた。

大会結果は、岩倉病院が京都きづ川病院Aを振り切り、11年ぶり3度目の優勝を手にした。技術面でのチーム差は少なく、勝敗を左右する場面でいかにミスが減らすかが大きなポイントであった。会員の親睦と交流が深まり、今後の大会がさらに盛り上がることを期待したい。

開催日 / 9/23(京都市体育館)、10/14・10/27(京都市横大路体育館)

参加 / 46病院50チーム

優勝 / 岩倉病院 準優勝 / 京都きづ川病院 A

第 3 位 / 宇治徳洲会病院、医仁会武田総合病院 B

協賛 / 株式会社 セレマ

実行委員会・組合せ抽選会 8月27日 於：京都府医師会館

実行委員長 市場真澄（岩倉病院）

実行委員 近本 智（医仁会武田総合病院）、安藤寧浩（宇治徳洲会病院）、

山田昌幸（第二岡本総合病院）、仲田昌司（三菱京都病院）、

若林貞弘（京都南病院）

担当理事 梶並稔正、久野成人

【京都保健衛生専門学校】

超高齢化と少子化の社会の到来は、国の医療・福祉の見直しにより、平成12年4月から介護保険制度が開始され、在宅介護や病院の類型化の進行など経済のデフレ化とあいまって医療系専門学校卒業生の進路にも深刻な影響が出ている。

平成13年度の本校の概要と動きを以下に報告する。

1) 役員

| | | | |
|----------|-------------|---------|---------|
| 理事長 清水 紘 | 理事(校長) 大澤 直 | 理事 吉岡秀憲 | 理事 中野種樹 |
| 理事 大川原康夫 | 理事 近藤泰正 | 理事 武田隆久 | 理事 富田哲也 |
| 理事 三上勝利 | 理事 松崎祥三 | 監事 大橋一郎 | 監事 仁田恭三 |

9月12日 吉岡秀憲理事が逝去された。

2) 平成13年度の取り組み

本校では、京都私立病院協会会員病院への看護師・臨床検査技師・臨床工学技士の供給に重点を置き教育に取り組んでいるが、社会構造の変化とそれに伴う保健医療政策により、卒業後の就業や在学中の働きながら学ぶことについても見直すべき時期が来ている。

平成13年度は、主として

- (1) 看護2年課程・定時制の授業形態の変更検討
- (2) 臨床検査技師を病院で有用に活用してもらえるよう、検査技師に付加価値をつけるため、検査技師以外の資格(具体的には臨床工学技士・診療情報管理士・ME2種など)を最低一つは取得させるための教育体系の見直しに取り組んだ。

診療情報管理士については、第二臨床検査学科が日本病院会通信教育の専門課程編入指定校となった。

学 校 行 事

(平成13年度)

| | | |
|---------|--------------------|-------------|
| 4月11日 | 入学式 | 於：京都アスニー |
| 11日 | 保護者会(看三・看二全・一臨1年生) | |
| 16日 | 第47回臨床検査技師国家試験合格発表 | |
| 19日～20日 | 学外学習(看二定時1・2年生) | 於：京都府立ゼミナール |
| 20日～21日 | 学外学習(看二全日1年生) | 於：コミュニティ嵯峨野 |
| 21日～22日 | 学外学習(看三1年生) | 於：花脊山の家 |
| 23日～24日 | 看護学科学生健康診断 | |

| | |
|------------|---|
| 24日 | 第2回校務運営会議(第3期) |
| 5月15日 | 第3回校務運営会議(第3期) |
| 15日 | 日本看護学校協議会総会・学校長会議 於：アルカディア市ヶ谷私学会館 |
| 18日 | 臨床検査学科学生健康診断 |
| 21日 | 第3回学校法人理事会・第1回学校法人評議員会(第3期) 於：本校 |
| 25日 | 京都府看護学校連絡協議会定例会 於：本校 |
| 28日 | 全国臨床検査技師教育施設協議会春期総会 於：東京医科歯科大学 |
| 5月30日・6月1日 | ツベルクリン反応検査(1回目) |
| 6月5日 | 体育祭 於：府立体育館 |
| 13日・15日 | ツベルクリン反応検査(2回目) |
| 19日 | 第4回校務運営会議(第3期) |
| 19日 | 第1回職員と理事との懇談会 於：本校 |
| 24日～29日 | 修学旅行(一臨2年生)シンガポール方面 |
| 27日 | 高校教員向け学校説明会 出席15校16名 |
| 27日 | 臨床工学技士専攻科健康診断 |
| 7月1日・2日 | 創立記念日・同振替休日 |
| 6日 | 第2回職員と理事との懇談会 於：本校 |
| 14日・21日 | 志望者向け学校説明会 参加 看三71名 看二17名 検査14名 計102名 |
| 25日 | 第5回校務運営会議(第3期) |
| 25日 | 京都保健衛生専門学校懇親会 |
| 8月2日 | 職員厚生福利行事(ユニバーサルスタジオジャパン) |
| 28日 | 臨地実習指導者研修会(看護学科)出席指導者106名 |
| 9月8日 | 臨床工学技士専攻科講師・実習指導者懇親会 出席講師・指導者31名 |
| 19日 | 第6回校務運営会議(第3期) |
| 27日・28日 | 学外学習(臨工1年生) 於：亀田総合病院 |
| 10月5日 | 私病協向け入学試験説明会 出席36施設39名 |
| 12日 | 臨床検査学科第4回スポーツ大会(オリエンテーリング) 於：京都東山界限 |
| 14日 | 学校祭 |
| 16日 | 第7回校務運営会議(第3期) |
| 17日 | 防火訓練(雨天中止) |
| 20日 | 志望者向け学校説明会 参加 看三117名 看二21名 検査20名 計158名 |

- 31日 第4回学校法人理事会(第3期) 於:本校
- 11月22日 第8回校務運営会議(第3期)
- 28日 第3回職員と理事との懇談会 於:本校
- 12月11日 全国臨床検査技師教育施設協議会秋期会議 於:東京医科歯科大学
- 12日 第4回職員と理事との懇談会 於:本校
- 18日 日本看護学校協議会平成13年度教務主任会議
於:アルカディア市ヶ谷私学会館
- 21日 スケート教室(一臨) 於:醍醐スケート
- 1月17日 第9回校務運営会議(第3期)
- 2月14日 第10回校務運営会議(第3期)
- 21日・23日 卒業認定会議(全学科)
- 24日 第91回看護婦国家試験
- 3月1日 第48回臨床検査技師国家試験
- 3日 第15回臨床工学技士国家試験
- 13日 卒業式 於:京都アスニー
- 19日 第5回学校法人理事会(第3期)
- 27日 看護学科懇親会 於:平安会館 出席講師・指導者129名
- 28日 第15回臨床工学技士国家試験合格発表
- 29日 第91回看護婦国家試験合格発表
- 29日 進級認定会議(看護・検査)

学 生 関 係

A 入学式

平成14年4月10日

| 学 科 | 入学を認定されたもの |
|----------------|------------|
| 看護学科 三年課程 | 23期生 44名 |
| 看護学科 二年課程(全日制) | 36期生 44名 |
| 看護学科 二年課程(定時制) | 36期生 44名 |
| 第一臨床検査学科 | 30期生 43名 |
| 第二臨床検査学科 | 30期生 29名 |
| 臨床工学技士専攻科 | 5期生 22名 |

B 在学生数

平成 14 年 4 月 10 日

| 学 科 | 1 年 生 | 2 年 生 | 3 年 生 | 4 年 生 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|
| 看護学科 三年課程 | 44 | 53 | 45 | - |
| 看護学科 二年課程(全日制) | 47 | 47 | - | - |
| 看護学科 二年課程(定時制) | 44 | 48 | 43 | - |
| 第一臨床検査学科 | 52 | 34 | 33 | - |
| 第二臨床検査学科 | 30 | 12 | 21 | 30 |
| 臨床工学技士専攻科 | 22 | - | - | - |

C 卒業式

平成 14 年 3 月 14 日

| 学 科 | 卒業を認定されたもの | |
|----------------|------------|------|
| 看護学科 三年課程 | 21 期生 | 36 名 |
| 看護学科 二年課程(全日制) | 35 期生 | 36 名 |
| 看護学科 二年課程(定時制) | 34 期生 | 36 名 |
| 第一臨床検査学科 | 27 期生 | 38 名 |
| 第二臨床検査学科 | 26 期生 | 29 名 |
| 臨床工学技士専攻科 | 4 期生 | 20 名 |

D 平成 14 年度入学試験応募状況

| 学 科 | 応募者数 | 受験者数 |
|----------------|------|------|
| 看護学科 三年課程 | 236 | 224 |
| 看護学科 二年課程(全日制) | 118 | 114 |
| 看護学科 二年課程(定時制) | 171 | 140 |
| 第一臨床検査学科 | 88 | 81 |
| 第二臨床検査学科 | 33 | 32 |
| 臨床工学技士専攻科 | 38 | 37 |

【京都府病院協同組合】

平和で活気に満ちた21世紀への期待もむなしく、アメリカにおける同時多発テロを始めとして国内外に相次いで起こった重大な事件は、各国の政治経済に深刻な昏迷をもたらした。

その後のアフガン情勢、中東紛争の泥沼化など重い現実が先行きを不透明にしています。

日本においては、構造改革を旗印に小泉内閣が誕生したものの、改革の道のりは遠く改革途上の痛みばかりが先行した状態となっています。高止まりした失業率、中小企業ばかりか上場企業の倒産も続き、長い不況の中で閉塞感に包まれています。

医療関係については、平成14年度からの診療報酬引下げという激震に襲われて、文字どおり生き残りをかけた試行錯誤が展開されています。

こうした中、協同組合事業も大変厳しい状況におかれました。特に購買事業はデフレ下における価格競争が一段と厳しくなり、苦戦を強いられているところです。しかし、数年前から取り組み始めた機器ローンや消耗品のリースなどの事業が順調に育ってきたこともあり、本年も何とか所期の目標を達成することができました。販売促進奨励金として昨年度と同額の総額2,000万円を還元させていただきました。

これも偏に組合員各位のご協力の賜と厚くお礼申し上げます。

【京都府病院厚生年金基金】

“ゆとりある老後”と“業界の発展”は共通の願い！

当病院厚生年金基金は、京都私立病院協会を母体とし、昭和55年11月に設立しました。

基金設立22年になりますが、当基金加入事業所の事業主の皆様のご支援、ご協力をいただき、順調な発展を遂げております。

当病院厚生年金基金は、加入員の「老後」の生活を支え、豊かにするために欠くことの出来ないものとなっております。超高齢化、少子化、低成長時代に対応できるよう、当病院厚生年金基金を将来に向け確固としたものにするため、年金資産の効率的な運用に努力しております。また、京都私立病院協会(母体)の中で、「未加入病院」がなくなるよう、基金への加入の促進に努めております。以下、平成13年度の事業概況は次のとおりです。

- 加入事業所数 82事業所
- 加入員数 男子 2,998名(前年度比170名増)
女子 9,214名(前年度比343名増)
合計 12,212名(前年度比513名増)

(年金経理)掛金収入と資産運用による収益受入金が収入で、年金・一時金、業務委託費等が支出です。

- 信託(保険含む)資金 264億円(見込み額)
- 掛金収入 2,387,137千円(前年度比109,117千円増)
- 年金受給権者数 2,358名(前年度比144名増)
- (内訳)・ 全額支給 2,291名(前年度比139名増)
 - ・ 一部支給 48名(前年度比4名増)
 - ・ 全額停止 19名(前年度比1名増)
- 年金支給額 529,577千円(前年度比36,085千円増)
- 一時金支給者数 519名(前年度比25名減)
- 一時金支給額 140,357千円(前年度比15,257千円増)

(福祉施設会計)掛金収入、業務会計からの受入金等が収入で、体育館建設資金や音楽会及び基金合唱団に要する費用が支出です。資産合計は見込額です。

- 資産合計 1,612,754千円(掛金、預貯金、土地等)
- (融資取扱い状況)事業主や加入員に対しての融資斡旋。
- 事業資金 400,000千円(2件)

当病院厚生年金基金の補欠代議員(理事)選挙を実施し、大槻 均(医療法人医仁会武田総合病院)が選出されました。

【京都中央看護専門学校】

京都中央看護専門学校では、昭和58年4月の開校以来19年になり、平成13年4月には佐野豊校長を迎えた。平成14年3月5日に第17期71名の卒業式を行い、今日まで第17期生を含めて1061名の看護師を私病協の会員病院へ送り出した。

また平成13年3月は本校の設立母体である財団法人京都中央看護婦養成事業団設立20年を迎え、7月には新しく評議員を選任し、評議員会をつくった。

さて、医療、特に病院を取巻く状況は、高齢化、医療の高度化、専門化、介護保険の導入などによって大きく変化しているが、看護学校の状況もその変化の中にあり、これからは少子化により「受験生の確保」と「看護学生の質の問題」が大きな課題になっている。看護系大学が多く生まれる中で、看護専門学校のこれからの道を考えざるを得ない状況でもある。

本校では、病院のニーズを把握しつつ、「魅力的な看護学校」をつくり、すぐれた看護師を養成することが重要だと考え学校運営を行ってきた。人間性豊かな卒業生を送り出すために、カリキュラムでは基礎分野での選択制や様々のゼミを導入して学生への効果のある教育を目指し行なった。

また、私病協の各病院に勤務する卒業生を対象とした卒後教育を実施して、より質の高い看護師の育成をめざした。そして、学校ニュース『コスモス』を発行し卒業生、病院、高等学校に本校の情報を提供してきた。

主な学校行事

平成13年

- 4月9日 前期授業開始
- 10日 入学式（第19期生 1年生78名）
- 11～13日 新入生オリエンテーション
- 16～28日 老年実習（3年生）
- 5月7日 各論病院実習開始（3年生）～12月7日
- 16日 ナイチンゲル祭
- 30日 第72回事業団理事会
- 6月7～8日 宿泊研修 京都府ゼミナールハウス
- 13日 防災訓練（1年生・京都市市民防災センター）
- 28日 学校説明会（私病協対象）
- 29日 学校説明会（高校進路指導者対象）

- 7月9～13日 基礎看護 実習(1年生)
- 11日 第73回理事会・第1回評議員会
- 21日 看護の日 学校公開
- 16日 夏期休暇開始
- 8月21日 夏期研修会(教員 実習指導者)
- 27～9/14日 基礎看護 実習(2年生)
- 31日 夏期休暇終了
- 9月5～6日 看護研究発表会(3年生)
- 10月4～11日 前期試験
- 17日 京都府看護学校親善バレ-ポ-ル大会 優勝
- 23日 戴帽式(1年生)
- 11月1～8日 平成14年度推薦入学願書受付
- 7日 奨学金支給病院懇談会
- 9日 秋期レクリエ-ション(運動会)
- 10～11日 学校祭(コスモス祭)
- 17日 推薦入試
- 19日 学校運営会議(入試合格判定、他)
- 20日 第74回理事会・第2回評議員会
- 22日 推薦入試合格発表
- 12月5日 実習指導者会議・講師会・合同懇親会
- 7日 各論実習終了(3年生)
- 13～25日 一般入試願書受付
- 18日 冬期休暇開始
- 18～1/6日 一般入試願書受付
- 平成14年
- 1月7日 冬期休暇終了
- 15～16日 一般入試
- 18日 学校運営会議(入試合格判定他)
- 22日 一般入試合格発表
- 2月8日 開校記念日
- 7～14日 後期試験
- 25～3/1日 基礎看護 実習(1年生)
- 24日 看護婦国家試験
- 3月5日 第17期卒業式 71名

- 6日 卒業を祝う会（京都グランピアホテル）
- 15日 第75回理事会・第3回評議員会
- 25日 春期休暇開始
- 29日 看護婦国家試験合格発表

学生数

| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 計 |
|---------|-----|-----|-----|-----|
| 平成12年4月 | 78 | 90 | 74 | 242 |
| 平成13年3月 | 75 | 86 | 74 | 235 |

人事異動

1 事業団役員（平成14年4月1日）

| | | |
|------|-------|-----------------------|
| 理事長 | 大槻秧司 | 亀岡病院理事長 |
| 副理事長 | 佐野 豊 | 京都中央看護専門学校校長 |
| " | 真鍋克次郎 | 京都八幡病院理事長 |
| 常務理事 | 島田崇志 | 京都中央看護専門学校事務局長 |
| 理 事 | 明石隆夫 | 京都市保健福祉局保健衛生推進室部長 |
| " | 大賀興一 | 第二岡本総合病院院長 |
| " | 児島幸照 | 長岡病院院長 |
| " | 大賀興一 | 第二岡本総合病院院長 |
| " | 清水幸夫 | シミズ病院理事長 |
| " | 菅原 努 | 京都大学医学部名誉教授 |
| " | 武田道子 | 武田病院理事長 |
| " | 中嶋芙美江 | 元京都府看護協会会長 |
| " | 中野博美 | 京都きづ川病院理事長 |
| " | 水谷幸正 | 仏教大学理事長 |
| 監 事 | 板坂 勉 | 宇治病院事務局長 |
| " | 橋本博道 | 京都市保健福祉局保健衛生推進室地域医療課長 |
| 評議員 | 安藤正昭 | 京都南病院常任顧問 |
| | 池西静江 | 京都中央看護専門学校副校長 |
| | 稲田雅美 | 同志社女子大学助教授 |
| | 河端一也 | 新河端病院院長 |

| | |
|------|--------------|
| 河村 正 | 元堀川高校校長 |
| 木下明美 | 三菱京都病院看護科部長 |
| 久野成人 | 久野病院副院長 |
| 坂本正寿 | 弁護士 |
| 流石智子 | 華頂短期大学教授 |
| 清水正啓 | 愛生会山科病院院長 |
| 田中秀和 | 京都博愛会病院事務長 |
| 谷口隆司 | 京都市南保健所長 |
| 松井道宣 | 京都九条病院理事長 |
| 吉田多美 | 京都私立病院協会事務局長 |

資 料

資料 1

平成 14 年 4 月 5 日

厚生労働大臣
日本医師会長 宛
四病協各会長

近畿病院団体連合会
社団法人 滋賀県病院協会
社団法人 滋賀県私立病院協会
京都府病院協会
社団法人 京都私立病院協会
社団法人 奈良県病院協会
社団法人 和歌山県病院協会
社団法人 大阪府病院協会
社団法人 大阪府私立病院協会
兵庫 県 病 院 協 会
社団法人 兵庫県私立病院協会

平成 14 年度 社会保険診療報酬改定に関する要望書

平成 14 年 4 月からの社会保険診療報酬改定は、医療の質の向上を目指す病院医療の実態を無視するものです。病院が医療環境整備に努力を重ねている現状を理解せず、経済主導的手法での数々の減点改定には、良質な医療を行っている現場の意見が反映されておりませんので、以下の項目について緊急に要望します。

また、消費税についても、別立てで損税の補填を行うよう併せて要望します。

記

- 1 医療機関の経営の根幹に係わるリハビリ、画像診断及び手術などの技術料の減点を撤回すること。
- 2 各種対策実施に対する減算方式を撤回すること。
- 3 感染症対策加算を創設すること。
- 4 診療録管理体制加算を増額すること。
- 5 180日規制の撤回及び療養病床の 1 ヶ月初期加算を復活すること。
- 6 診療報酬の改定にあたっては、病院団体と十分に協議を行うこと。
- 7 診療報酬を改定し施行するにあたっては、6 ヶ月以上の準備期間を設けること。

資料2

私病協発 13-261
2001年9月25日

京都府医師会

会長 横田耕三様

京都私立病院協会

会長 武田隆男

小児夜間救急医療に対する京都私立病院協会の意見書

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、当協会会員病院の運営にご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、貴会より平成13年6月18日付で本会に対し意見を求められました“京都市における小児夜間救急医療についての調査結果のまとめ”に対しまして、本会理事会において次のような意見がまとまりましたのでご報告いたします。

貴会のご意見のとおり、小児夜間救急は、小児科医の不足のためにその対策は非常に困難な手詰まり状態ではあるが、その打開策として一次救急医療を1ヶ所ないしは数ヶ所で取り扱うことは、現在の窮状に更に拍車をかけることになる。むしろ、現在小児科を標榜している診療所および病院に一次医療を担うよう窓口を広げることが必要であると考え。

深夜帯での急患の対応が困難なことから、二次輪番制を活用して更なる充実を図り、京都市内で複数ヶ所、府下でも小児夜間輪番制度に取り組むことが、三次救急を担う医療機関の負担を減らすことになると思われる。

また、民間の医療機関と二次輪番制度の情報を公開していくことによって、急患対応の窓口を拡大していくことも必要ではないかと考える。

三次救急については、両大学が主として受け持つことにより小児科医の分散を出来るだけ避けることが適切であると考え。

当協会会員病院も更なる努力を重ねる所存でございますので、今後の小児救急医療体制の整備にあたっては、本会の意見も是非反映していただきますようお願い致します。

第2号議案

平成13年度社団法人京都私立病院協会
歳入歳出決算に関し承認を求める件

収支計算書
(一般会計)

平成13年4月1日から平成14年3月31日まで

(単位:円)

| 科 目 | | 13年度予算額 | 13年度決算額 | 差 異 |
|-----------|-----------------|--------------|--------------|--------------|
| 収入の部 | | | | |
| 1 入会金収入 | | (0) | (130,000) | (130,000) |
| | 入会金収入 | 0 | 130,000 | 130,000 |
| 2 会費収入 | | (50,000,000) | (50,365,190) | (365,190) |
| | 会費収入 | 50,000,000 | 50,365,190 | 365,190 |
| 3 事業収入 | | (59,600,000) | (67,291,600) | (7,691,600) |
| | 参加収入 | 36,000,000 | 41,956,000 | 5,956,000 |
| | 広告収入 | 11,000,000 | 14,061,500 | 3,061,500 |
| | その他の事業収入 | 1,000,000 | 1,130,100 | 130,100 |
| | 管理者養成講座収入 | 8,280,000 | 8,220,000 | 60,000 |
| | ホームヘルパー養成収入 | 3,320,000 | 1,924,000 | 1,396,000 |
| 4 補助金等収入 | | (8,000,000) | (8,133,000) | (133,000) |
| | 交付金収入 | 7,000,000 | 7,133,000 | 133,000 |
| | 医療事故防止対策推進事業補助金 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 |
| 5 雑収入 | | (310,000) | (697,055) | (387,055) |
| | 受取利息 | 10,000 | 92,168 | 82,168 |
| | 雑収入 | 300,000 | 604,887 | 304,887 |
| 当期収入合計(A) | | 117,910,000 | 126,616,845 | 8,706,845 |
| 前期繰越収支差額 | | 16,136,085 | 16,136,085 | 0 |
| 収入合計(B) | | 134,046,085 | 142,752,930 | 8,706,845 |

私病報購読料は会費に含めて徴収される。

(単位：円)

| 科 目 | | 13年度予算額 | 13年度決算額 | 差 異 |
|-------------------|---------------------------|---------------|---------------|--------------|
| 支出の部 | | | | |
| 1 事業費 | | (130,546,085) | (119,080,993) | (11,465,092) |
| | 給 与 等 | 43,000,000 | 42,358,764 | 641,236 |
| | 退 職 金 | 0 | 0 | 0 |
| | 法 定 福 利 費 | 6,450,000 | 5,241,512 | 1,208,488 |
| | 福 利 厚 生 費 | 500,000 | 356,002 | 143,998 |
| | 会 議 費 | 1,500,000 | 1,422,904 | 77,096 |
| | 旅 費 交 通 費 | 4,000,000 | 3,982,705 | 17,295 |
| | 通 信 費 | 4,500,000 | 4,140,481 | 359,519 |
| | 消 耗 品 費 | 4,000,000 | 3,471,245 | 528,755 |
| | 印 刷 費 | 3,000,000 | 3,012,636 | 12,636 |
| | 賃 借 料 | 1,312,800 | 1,312,800 | 0 |
| | 調 査 研 究 費 | 300,000 | 0 | 300,000 |
| | 一 般 事 業 費 | 36,000,000 | 31,806,856 | 4,193,144 |
| | 慶 弔 費 | 500,000 | 225,500 | 274,500 |
| | 函 書 資 料 費 | 1,000,000 | 707,244 | 292,756 |
| | 私 病 報 発 行 費 | 10,000,000 | 9,622,747 | 377,253 |
| | 寄 付 金 支 出 | 50,000 | 10,000 | 40,000 |
| | 長 期 未 払 金 返 済 支 出 | 114,444 | 114,444 | 0 |
| | 支 払 手 数 料 | 1,400,000 | 1,386,000 | 14,000 |
| | 管 理 者 養 成 事 業 費 | 6,000,000 | 4,958,945 | 1,041,055 |
| | 無 料 職 業 紹 介 事 業 費 | 800,000 | 485,160 | 314,840 |
| | ホ ー ム ヘルパー 養 成 費 | 3,320,000 | 1,705,682 | 1,614,318 |
| | 医 療 事 故 防 止 対 策 推 進 事 業 費 | 1,874,000 | 2,067,662 | 193,662 |
| | 医 療 事 故 防 止 備 品 購 入 支 出 | 126,000 | 126,000 | 0 |
| | 雑 費 | 298,841 | 565,704 | 266,863 |
| | 予 備 費 | 500,000 | 0 | 500,000 |
| 2 固定資産取得支出 | | (500,000) | (275,730) | (224,270) |
| | 什 器 備 品 購 入 支 出 | 500,000 | 275,730 | 224,270 |
| 3 特定預金支出 | | (2,000,000) | (2,000,000) | (0) |
| | 退 職 給 与 引 当 預 金 支 出 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 |
| 4 予備費 | | (1,000,000) | (0) | (1,000,000) |
| | 予 備 費 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 |
| 当期支出合計(C) | | 134,046,085 | 121,356,723 | 12,689,362 |
| 当期収支差額(A) - (C) | | 16,136,085 | 5,260,122 | 21,396,207 |
| 次期繰越収支差額(B) - (C) | | 0 | 21,396,207 | 21,396,207 |

正味財産増減計算書（一般会計）

平成13年4月1日から平成14年3月31日まで

（単位：円）

| 科 目 | 金 額 | |
|-------------|-----------|------------|
| 増 加 の 部 | | |
| 1 資産増加額 | | |
| 当期収支差額 | 5,260,122 | |
| 什器備品購入額 | 401,730 | |
| 退職給与引当預金増加額 | 2,000,000 | 7,661,852 |
| 2 負債減少額 | | |
| 長期未払金支払額 | 114,444 | 114,444 |
| 増加額合計 | | 7,776,296 |
| 減 少 の 部 | | |
| 1 資産減少額 | | |
| 什器備品除却額 | 35,000 | |
| 什器備品減価償却額 | 1,085,074 | 1,120,074 |
| 2 負債増加額 | | |
| 退職給与引当金繰入額 | 1,711,100 | 1,711,100 |
| 減少額合計 | | 2,831,174 |
| 当期正味財産増加額 | | 4,945,122 |
| 前期繰越正味財産額 | | 57,273,244 |
| 期末正味財産合計額 | | 62,218,366 |

貸借対照表（一般会計）

平成14年 3月31日現在

（単位：円）

| 科 目 | 金 額 | | |
|---------------------|------------|------------|-------------|
| 資 産 の 部 | | | |
| 1 流 動 資 産 | | | |
| 現 金 預 金 | 22,024,682 | | |
| 未 収 会 費 | 42,820 | | |
| 未 収 入 金 | 5,681,000 | | |
| 仮 払 金 | 31,500 | | |
| 流 動 資 産 合 計 | | 27,780,002 | |
| 2 固 定 資 産 | | | |
| そ の 他 の 固 定 資 産 | | | |
| 什 器 備 品 | 2,426,653 | | |
| 電 話 加 入 権 | 308,884 | | |
| 保 証 金 | 50,000 | | |
| 退 職 給 与 引 当 預 金 | 20,861,362 | | |
| 基 金 積 立 預 金 | 22,931,750 | | |
| 学 校 関 係 積 立 預 金 | 6,411,000 | | |
| 什 器 備 品 積 立 預 金 | 4,345,788 | | |
| 管 理 者 養 成 積 立 預 金 | 5,031,087 | | |
| そ の 他 の 固 定 資 産 合 計 | 62,366,524 | | |
| 固 定 資 産 合 計 | | 62,366,524 | |
| 資 産 合 計 | | | 90,146,526 |
| 負 債 の 部 | | | |
| 1 流 動 負 債 | | | |
| 未 払 金 | 4,220,310 | | |
| 前 受 金 | 1,140,000 | | |
| 預 り 金 | 768,485 | | |
| 仮 受 金 | 255,000 | | |
| 流 動 負 債 合 計 | | 6,383,795 | |
| 2 固 定 負 債 | | | |
| 退 職 給 与 引 当 金 | 21,115,200 | | |
| 長 期 未 払 金 | 429,165 | | |
| 固 定 負 債 合 計 | | 21,544,365 | |
| 負 債 合 計 | | | 27,928,160 |
| 正 味 財 産 の 部 | | | |
| 正 味 財 産 | | | 62,218,366 |
| （うち当期正味財産増加額） | | | (4,945,122) |
| 負 債 及 び 正 味 財 産 合 計 | | | 90,146,526 |

計算書類に対する注記（一般会計）

1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却について

什器備品...定率法による減価償却を実施している。

(2) 引当金の計上基準について

退職給与引当金...期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

(3) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収会費、未収入金、仮払金、未払金、前受金、預り金、仮受金を含めることにしている。なお、前期末及び当期末残高は、2に記載のとおりである。

(4) 消費税等の会計処理について

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

| 科 目 | 前期末残高 | 当期末残高 |
|----------|------------|------------|
| 現金預金 | 15,260,100 | 22,024,682 |
| 未収会費 | 232,870 | 42,820 |
| 未収入金 | 4,785,000 | 5,681,000 |
| 仮払金 | 31,500 | 31,500 |
| 合 計 | 20,309,470 | 27,780,002 |
| 未払金 | 1,241,500 | 4,220,310 |
| 前受金 | 1,982,000 | 1,140,000 |
| 預り金 | 697,885 | 768,485 |
| 仮受金 | 252,000 | 255,000 |
| 合 計 | 4,173,385 | 6,383,795 |
| 次期繰越収支差額 | 16,136,085 | 21,396,207 |

3 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

| 科 目 | 取得価額 | 減価償却累計額 | 当期末残高 |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 什器備品 | 9,280,372 | 6,853,719 | 2,426,653 |
| 合 計 | 9,280,372 | 6,853,719 | 2,426,653 |

謄本

監査報告書

私たちは、平成13年4月1日から平成14年3月31日までの平成13年事業年度における理事会の執行を監査するため、理事会に出席するほか、必要に応じて理事から事業の報告を聞き、重要な決裁書類を閲覧し、計算書類につき慎重に検討を加え、監査した結果次のとおり報告します。

記

- 1 貸借対照表及び収支計算書並びに財産目録は、法令及び定款にしたがって、協会の財産及び収支の状況を正しく示していると認める。
- 2 事業報告書の内容は真実であると認める。
- 3 理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実の有無については、指摘すべき事実はない。

以上

平成14年5月9日

社団法人京都私立病院協会
会長 武田 隆男 殿

監事 相馬 秀 臣
監事 大川原康夫
監事 坂本 正 寿

第3号議案

平成14年度 社団法人京都私立病院協会 事業計画に関し承認を求める件

本年度事業計画の重点

- (1) 民間病院は地域医療に大きな役割を果たしている。地域医療の向上には民間病院の経営の安定こそが不可欠であることを訴える。
- (2) 医療の荒廃を招く行き過ぎた市場原理に基づく医療制度改革や診療報酬改定に反対し、他の医療関係団体と協力して、その改善を求める。
- (3) 医療の安全のための対策を更に推進する。
- (4) 変化しつつある社会の要望に対応して、医療の質及び病院機能の向上、倫理の高揚に努める。
- (5) 医療と介護の整合性を検討するなかで、今後の高齢者医療制度の在り方及び介護報酬の改定について提言をおこなう。
- (6) 病院にとって不当な損税となっている消費税並びにその他の税制度の改正を求めていく。

【総務部】

1 日常活動の充実と会員への積極的働きかけ

- (1) 職種職務別組織活動、地区別組織活動を充実させ、会員相互の連携と組織の体質強化を図る。

職種職務別組織

- a. 理事長・院長会 b. 医師部会 c. 事務長会 d. 婦長部会 e. 薬局長会
f. 放射線技師部会 g. 栄養士部会 h. 臨床検査部会

地区別組織

- a. 京都市域 b. 北部地区 c. 南部地区

- (2) 会員に必要な情報の迅速な収集・整理・提供に努め、広報活動を充実させる。そのための情報ネットワーク化の一層の推進と私立病院報の内容の充実を図る。
- (3) 病院の質、機能向上及び医の倫理の高揚にむけて研究・研修をおこない、第三者による機能評価について積極的に活用を図る。
- (4) 医療従事者の確保と質の向上対策に努める。
京都保健衛生専門学校と京都中央看護専門学校を充実させ、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士の養成に力を注ぐ。
医療従事者無料職業紹介事業の充実をはかる。
- (5) 関連団体との親密な関係を維持し、事業の発展に寄与する。

京都保健衛生専門学校
京都府病院協同組合
京都府病院厚生年金基金
京都中央看護婦養成事業団

2 医療制度問題への取り組み

- (1) 医療を取り巻く情勢を的確に把握し、日本の医療のあるべき姿を求める活動を積極的におこなう。
- (2) 病院医療制度検討委員会を開催し、医療制度の問題について理事会へ提言をおこなう。

3 対外活動の推進

- (1) 京都における他の病院団体との連携強化を図る。
- (2) 近畿病院団体連合会の充実発展に寄与する。
- (3) 日本医師会をはじめ四病院団体協議会(日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神病院協会)等との連携を深める。
- (4) 協会活動について行政やメディアをはじめ、広く社会・地域などへ発信し、医療の実情の理解を得るよう努めるとともに、民間病院の果している機能とその役割を周知させる。

【保険部】

1 医療保険制度上の諸問題への対応

- (1) 良質な医療および療養環境整備のため、民間病院への補助金の拡大や診療報酬の改善を求める。
- (2) 社会保険の諸基準の取得・維持・調査等について、会員への積極的な助言・指導、関係団体との調整をおこなう。
- (3) 政管健保生活習慣病予防健診指定が民間病院に広く開放されるよう引き続き取り組むとともに、その運用の公平化を求める。
- (4) 電子カルテに対応するDRGやICD 10等の検討をおこなう。

3 介護保険制度上の諸問題への取り組み

- (1) 良質な介護療養の環境整備のため、介護報酬の改善を求める。
- (2) 京都における高齢者保健福祉計画の見直しに向けて、介護を担う立場から積極的に提言をおこなう。
- (3) 身体拘束廃止に向けた取り組みに介護療養の立場から提言をおこなう。
- (4) 介護の一翼を担うケアマネジャーの立場の確立を求めていく。
- (5) ホームヘルパーの養成を継続し、在宅介護の担い手の充実を図る。

【地域医療部】

1 救急医療ならびに休日時間外診療体制の推進

- (1) 京都府内における2次病院群輪番体制の更なる充実をめざす。
- (2) 各救急病院の質的向上を図り、2次救急と3次救急の分担と連携をめざす。
- (3) 精神科救急・小児救急体制等の確立を図る。
- (4) 自動車保険が適正に運用されるように関係各方面に積極的に働きかける。

2 感染症対策の推進

感染症対策委員会を開催し、感染症問題について各病院の情報交換などをおこなうことにより、感染症対策の向上を目指す。

3 安全対策の推進

医療安全対策委員会を中心に、事故防止と医療安全について啓蒙活推進する。

4 カルテ開示など情報開示についての検討

情報開示委員会を開催し、医療機関の情報開示のあり方等について検討する。

【経営部】

1 病院経営に関する会員間の情報交換と経営改善にむけた活動の推進

- (1) アウトソーシングに対してその有効利用を検討する。
- (2) 薬事委員会を開催し、医薬品購入等に関する情報交換をおこない、必要に応じて業者交渉等をおこなう。
- (3) 購買担当者会議を開催し、医療機器、医療資材などの調達に関する情報交換をおこなう。
- (4) 入院環境整備委員会を開催し、入院環境の向上に向けた活動をおこなう。
- (5) 感染性廃棄物処理問題委員会を開催し、病院の廃棄物処理や環境問題について検討をおこなう。

2 病院の資金確保対策

- (1) 民間病院に対する国庫ならびに京都府の補助制度の周知と活用を推進する。
- (2) 「京都府救急告示病院等運転資金融資斡旋制度」の運用に向けて、条件の整備に取り組む。

3 消費税をはじめ事業税、法人税、相続税等の租税問題について研究し、改善を関係機関に働きかける。

【学術研修部】

1 京都病院学会の開催

第37回京都病院学会を開催し、会員の研究成果を発表する場として、より一層の充実を図る。

2 教育研修の開催

- (1) 新入職員を対象とした教育訓練初級コースを開催する。
- (2) 看護師の卒後研修の充実をはかり、看護職員の質の向上に努める。
- (3) 看護補助者・介護職員の教育研修に取り組む。
- (4) 職種別(薬剤・臨床検査・放射線・栄養・医療事務)の教育研修をおこない、優秀な職員の育成に努める。
- (5) 事務長、看護部長の教育研修会を開催する。
- (6) 保健医療管理者養成講座の充実を図る。
- (7) その他必要と思われる研修等の開催について、検討し実施していく。

3 医療倫理の高揚のための研鑽をおこなう。

【厚生部】

1 会員間の交流と親睦を深める事業の実施

- (1) 第38回病院対抗野球大会を開催する。
- (2) 第25回病院対抗女子バレーボール大会を開催する。
- (3) 各種文化活動を企画し、開催する。

2 会員施設の職員の福利厚生対策の向上への取り組み

- (1) 京都府病院厚生年金基金の充実のため努力する。

第4号議案

平成14年度社団法人京都私立病院協会
歳入歳出予算に関し承認を求める件

(一 般 会 計)

平成14年4月1日から平成15年3月31日まで

(単 位 : 円)

| 科 目 | | 14年度予算額 | 13年度予算額 | 差 異 |
|------------|-----------------|--------------|--------------|--------------|
| 収入の部 | | | | |
| 1 入会金収入 | | (0) | (0) | (0) |
| | 入会金収入 | 0 | 0 | 0 |
| 2 会費収入 | | (50,000,000) | (50,000,000) | (0) |
| | 会費収入 | 50,000,000 | 50,000,000 | 0 |
| 3 事業収入 | | (49,960,000) | (59,600,000) | (9,640,000) |
| | 参加収入 | 27,000,000 | 36,000,000 | 9,000,000 |
| | 広告収入 | 10,000,000 | 11,000,000 | 1,000,000 |
| | その他の事業収入 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 |
| | 管理者養成講座収入 | 8,640,000 | 8,280,000 | 360,000 |
| | ホームヘルパー養成収入 | 3,320,000 | 3,320,000 | 0 |
| 4 補助金等収入 | | (7,000,000) | (8,000,000) | (1,000,000) |
| | 交付金収入 | 7,000,000 | 7,000,000 | 0 |
| | 医療事故防止対策推進事業補助金 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 5 雑収入 | | (301,000) | (310,000) | (9,000) |
| | 受取利息 | 1,000 | 10,000 | 9,000 |
| | 雑収入 | 300,000 | 300,000 | 0 |
| 6 特定預金取崩収入 | | (0) | (0) | (0) |
| | 退職給与引当預金取崩収入 | 0 | 0 | 0 |
| | 什器備品積立預金取崩収入 | 0 | 0 | 0 |
| 当期収入合計(A) | | 107,261,000 | 117,910,000 | 10,649,000 |
| 前期繰越収支差額 | | 21,396,207 | 16,136,085 | 5,260,122 |
| 収入合計(B) | | 128,657,207 | 134,046,085 | 5,388,878 |

(単位：円)

| 科 目 | 14年度予算額 | 13年度予算額 | 差 異 |
|---------------------------|---------------|---------------|---------------|
| 支 出 の 部 | | | |
| 1 事 業 費 | (120,157,207) | (130,546,085) | (10,388,878) |
| 給 与 等 | 43,500,000 | 43,000,000 | 500,000 |
| 退 職 金 | 0 | 0 | 0 |
| 法 定 福 利 費 | 5,700,000 | 6,450,000 | 750,000 |
| 福 利 厚 生 費 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| 会 議 費 | 1,600,000 | 1,500,000 | 100,000 |
| 旅 費 交 通 費 | 5,000,000 | 4,000,000 | 1,000,000 |
| 通 信 費 | 4,700,000 | 4,500,000 | 200,000 |
| 消 耗 品 費 | 3,800,000 | 4,000,000 | 200,000 |
| 印 刷 費 | 1,500,000 | 3,000,000 | 1,500,000 |
| 賃 借 料 | 1,312,800 | 1,312,000 | 0 |
| 調 査 研 究 費 | 300,000 | 300,000 | 0 |
| 一 般 事 業 費 | 27,000,000 | 36,000,000 | 9,000,000 |
| 慶 弔 費 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| 函 書 資 料 費 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 |
| 私 病 報 発 行 費 | 11,000,000 | 10,000,000 | 1,000,000 |
| 寄 付 金 支 出 | 50,000 | 50,000 | 0 |
| 長 期 未 払 金 返 済 支 出 | 114,444 | 114,444 | 0 |
| 支 払 手 数 料 | 1,400,000 | 1,400,000 | 0 |
| 管 理 者 養 成 事 業 費 | 6,000,000 | 6,000,000 | 0 |
| 無 料 職 業 紹 介 事 業 費 | 800,000 | 800,000 | 0 |
| ホ ー ム ヘ ル パ ー 養 成 費 | 3,320,000 | 3,320,000 | 0 |
| 医 療 事 故 防 止 対 策 推 進 事 業 費 | 0 | 2,000,000 | 2,000,000 |
| 雑 費 | 559,963 | 298,841 | 261,122 |
| 予 備 費 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| 2 固 定 資 産 取 得 支 出 | (500,000) | (500,000) | (0) |
| 什 器 備 品 購 入 支 出 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| 3 特 定 預 金 支 出 | (7,000,000) | (2,000,000) | (5,000,000) |
| 退 職 給 与 引 当 預 金 支 出 | 5,000,000 | 2,000,000 | 3,000,000 |
| 基 金 積 立 預 金 支 出 | 2,000,000 | 0 | 2,000,000 |
| 4 予 備 費 | (1,000,000) | (1,000,000) | (0) |
| 予 備 費 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 |
| 当 期 支 出 合 計 (C) | 128,657,207 | 134,046,085 | 5,388,878 |
| 当 期 収 支 差 額 (A) - (C) | 21,396,207 | 16,136,085 | 5,260,122 |
| 次 期 繰 越 収 支 差 額 (B) - (C) | 0 | 0 | 0 |